

第4次酒田市子ども読書活動推進計画（案）



令和8年1月

酒田市教育委員会

目次

第1章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の策定にあたって

- 1 計画策定の目的
- 2 子ども読書に関する国及び県の方針
- 3 計画の位置付け
- 4 計画の対象
- 5 計画の期間

第2章 第3次酒田市子ども読書活動推進計画の成果と今後の課題

- 1 酒田市の現状
- 2 重点施策の取り組みと評価
- 3 今後の課題

第3章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

- 1 計画の目的
- 2 基本方針
- 3 重点施策及び数値目標

第4章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の取り組みについて

- 1 計画推進のために
- 2 関連施策・事業一覧

資料編

- ・計画の体系図
- ・アンケート結果
- ・ワークショップの詳細

第 1 章 第 4 次酒田市子ども読書活動推進計画の策定にあたって

1 計画策定の目的

国の基本理念では、「子ども（おおむね 18 歳以下の者）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう環境の整備が推進されなければならない」としています。

本計画は、子どもの読書活動を推進するための施策を総合的かつ計画的に推進し、子どもの健やかな成長に資することを目的とし、本市としての方向性や取り組みを示すものです。

子どもを取り巻く環境は大きく変化しており、近年のインターネット・SNS等の情報メディアの発達・普及による社会のデジタル化の進展やGIGAスクール構想による学校のICT環境の整備等により、子どもの読書活動は大きな影響を受けたと考えています。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休校や市立図書館の休館、学校での朝読書の廃止等、読書習慣の定着を阻害する要因が増えています。

多様な読書環境に身を置く子どもたちに対し、読書機会の確保やデジタル社会に応じた読書環境の整備等を推進していきます。また、家庭、地域、学校・園等社会全体で、自ら本に親しむ、読書好きな子どもを育み、子どもの豊かな心の育成を目指し策定いたします。

2 子ども読書に関する国及び県の方針

【国の動向】

平成 13 年 12 月に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づいて、平成 14 年 8 月、施策の基本的な方向性と具体的な方策を示し

た「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。以降、おおむね５年ごとに改正され、子どもの読書活動を推進しています。

令和５年３月には第五次計画が策定され次の４つの基本方針が定められています。

- １ 不読率の低減
- ２ 多様な子どもたちの読書機会の確保
- ３ デジタル社会に対応した読書環境の整備
- ４ 子どもの視点に立った読書活動の推進

そして、子ども読書活動の推進に当たっては、家庭、地域、学校等が中心となり、社会全体で取り組む必要がある、としています。

【県の動向】

平成１６年３月に策定された「第５次山形県教育振興計画」で「本が好きな子どもを育てる」として子どもの読書活動推進の取り組みがはじまり、平成１８年２月に「山形県子ども読書活動推進計画」が策定されました。

令和６年３月に策定された第４次計画では、「家庭・地域・学校等、社会全体で子どもの読書活動を推進し、子どもの豊かな心を育成」することを計画策定のねらいとし、次の３つの柱をすえ６つの施策に取り組んでいくとしています。

柱Ⅰ 家庭・地域・学校等を通した社会全体での多様な子どもの読書活動の推進

- １ 多様な子どもの可能性を引き出す、発達段階に応じた取り組みや個別最適な読書活動の実現、読書機会の確保
- ２ 子ども一人一人が好きな本を選択し、好きな時間・場所で、主体的に読書が行える、子どもの視点に立った読書活動の推進

柱Ⅱ 多様な子どもが読書に親しむ機会の提供と施設、設備その他諸条件の整備・充実

- １ 公立図書館（室）及び学校図書館等におけるDX推進と、デジタル社会に対応した読書環境の整備・充実
- ２ 図書館間及び関係機関等の連携促進

柱Ⅲ 子どもの読書活動に関する意義の理解促進

- １ 子どもの主体的な読書活動を推進する社会的な気運の醸成
- ２ 子どもの読書活動を推進する特色ある取り組みの奨励及び事例紹介

3 計画の位置付け

「子ども読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定では、市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策の計画策定の努力義務が定められています。

本計画は、国の「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（令和5年3月策定）」と県の「第4次山形県子ども読書活動推進計画（令和6年3月策定）」を基本とし、酒田市総合計画（後期計画）、第2期酒田市教育振興基本計画（後期計画）との整合性を図りながら策定するものとします。

4 計画の対象

この計画の対象は、主に0歳からおおむね18歳までの子どもとします。

また子どもの読書環境の整備には、子どものみならずその保護者、保育所等の保育士、学校の教職員等、日々子どもに接する大人のかかわりが非常に重要であることから、取り組みの主体は、大人を含む全ての市民としています。

5 計画の期間

令和8（2026）年度からおおむね4年間とします。

第2章 第3次酒田市子ども読書活動推進計画の成果と今後の課題

1 酒田市の現状

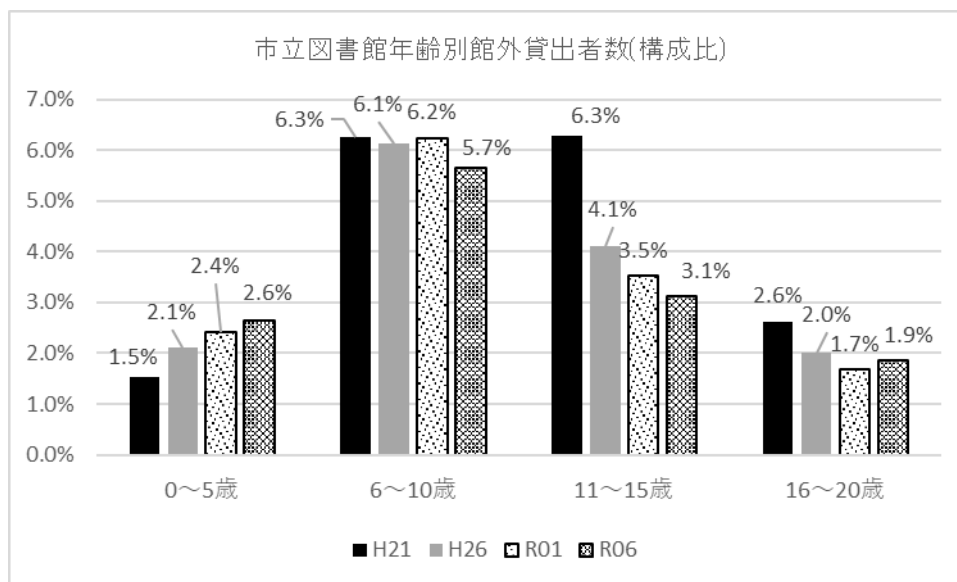
(1) 新中央図書館（ミライニ）の開館

令和4年5月、中央図書館がミライニに移転し、指定管理者（(株)図書館流通センター）による運営を開始しました。ミライニでは様々なイベントを企画しており、来館者に対して「家読（うちどく）」の啓発活動を行っています。また、子ども読書活動の推進に係る企画も多く開催しており、参加者からは好評を得ております。

新館移転時の図書整理の際に除籍作業を行ったため、令和4年度は蔵書冊数が減少したものの、開架および閉架が広がったため、順調に蔵書数は増加しています。また、館外貸出人数、館外貸出冊数および入館者数は大幅に増加しています。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
蔵書冊数(冊)	329,994	338,264	337,195	343,791	369,694
館外貸出人数(人)	125,752	113,856	141,711	163,229	154,469
館外貸出冊数(冊)	385,839	378,035	428,983	481,143	442,448
入館者数(人)	216,027	214,997	553,390	496,573	544,095

以下の表は年代別の館外貸出者の構成比です。



0～5歳の乳幼児期の館外貸出者数（構成比）は順調に増加しており、ブックスタートやベビーハグ等の取り組みの結果、保護者の読み聞かせ（読書習慣）の意識が高まっていることが読み取れます。

6歳～15歳の小学生・中学生世代については、年々減少しており、後述の学校図書館の貸出冊数の低下と合わせ、学校・家庭・地域・図書館が一体となって読書活動の推進を考えることが重要です。

16歳～20歳の高校生・大学生世代については、令和元年から増加しています。新館移転後は高校生の利用率が高く、特にテスト勉強期間は席が不足するほどであり、勉強にきた学生に対してどのように読書を勧めるかが重要です。

(2) 図書館を使った調べる学習コンクールの開催

①経過

市立図書館の新たな取り組みとして、令和6年度から「酒田・飽海 図書館を使った調べる学習コンクール」開催しました。指定管理者の提案による事業で、遊佐町立図書館と共催・協力して運営しています。

②概要

「図書館を使った調べる学習コンクール」は、公益財団法人図書館振興財団が主催し、文部科学省等が後援する全国コンクールです。学校教育・生涯学習の学習方法として有効な調べ学習の推進と、図書館の利用促進を目的として開催されています。また、地域コンクールの実施により、郷土愛の醸成をはじめ地域づくりや地域活性化につながる波及効果も期待されます。

令和6年度の全国コンクールでは、自治体の枠を超えたコンクールの展開が評価され、酒田市立図書館が「図書館を使った調べる学習活動賞」を受賞しました。（詳細は資料編を参照）

③作品制作の支援

- ・学校への出前講座の実施
- ・図書館での調べ学習支援プログラム「ミライニクエスト」の開催
- ・図書館での支援（レファレンス）
- ・関連企画の実施（クラフト体験ワークショップ、昆虫標本ワークショップ等）

2 重点施策の取り組みと評価

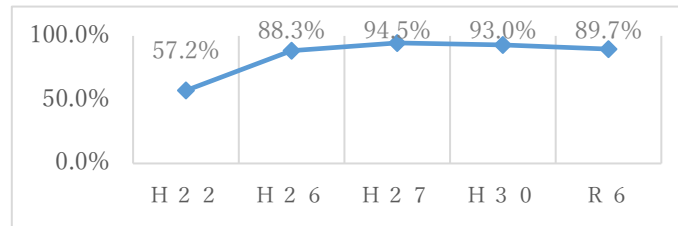
①ブックスタート事業

目標指標：ブックスタートで受け取った絵本を活用している保護者の割合※

【目標】 96%

【実績】 89.7%（令和6年度）

【前回】 93.0%（平成30年度）



- ・目標値には届かなかったものの、高い水準で受け取った絵本が活用されており、保護者のニーズも高く、本を活用して子どもと触れ合う時間を大切にすることができています。
- ・アンケートの中には、ブックスタートをきっかけに絵本に興味を持ち、図書館に行ったり、読み聞かせ会に参加したりするようになったという保護者もいます。

※第3次計画までは目標指標を「乳児への読み聞かせをよくする保護者の割合」と設定していたが、実態は「ブックスタートで受け取った絵本を活用している保護者の割合」であったため、修正したもの。

②読書の意義と重要性の広報

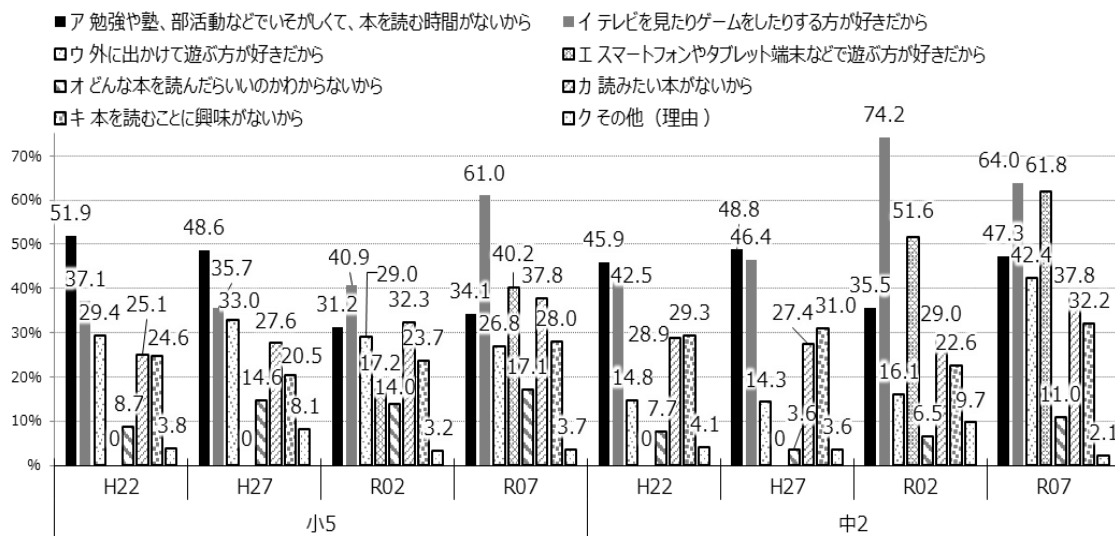
目標指標：1か月間にまったく本を読まない児童生徒の割合（不読率）

【目標】 小学生 0% 中学生 0%

【実績】 小学生 4.4% 中学生 24.4%（※令和6年度参考値）

【前回】 小学生 3.5% 中学生 7.6%（令和2年度）

- ・令和6年度実績値は、「学校以外でどれくらい本を読むか」という問いのため、学校での読書活動を除いた参考値です。



- ・前回調査から比較し、本を読むことよりもテレビ、ゲーム、スマートフォン等で遊ぶ方が好きという回答が多く、コロナ禍で外出を控える生活習慣が定着してしまった可能性があります。
- ・読みたい本がないという回答も増え、利用者のニーズに対応した資料収集が必要です。
- ・地域ボランティアによる読み聞かせ等の多様な取り組みが行われている学校もありますが、朝読書を廃止した学校が増えています。

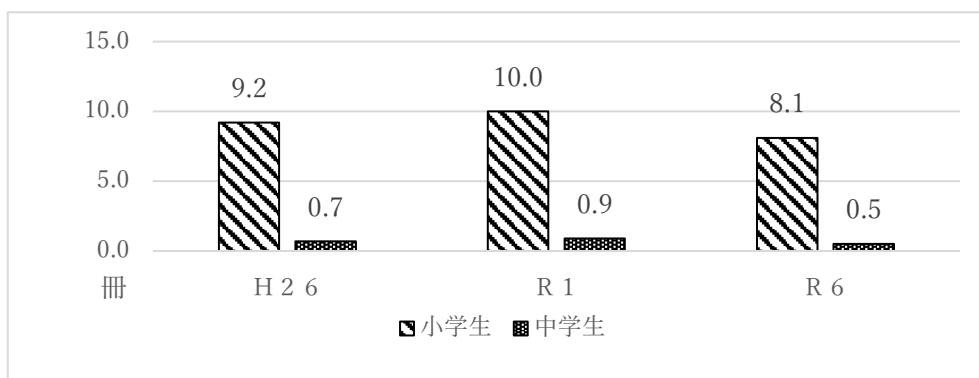
③魅力ある学校図書館づくり

目標指標：学校図書館の児童生徒一人当たりの月間貸出冊数

【目標】小学生 12 冊／月 中学生 2 冊／月

【実績】小学生 8.1 冊／月 中学生 0.5 冊／月（令和 6 年度）

【前回】小学生 10.0 冊／月 中学生 0.9 冊／月（令和元年度）



- ・小学生、中学生ともに貸出冊数が低下しており、特に中学生は学校における読書活動が危機的な状況です。

- ・毎年4月に「図書専門員研修会」を行い、学校内での図書専門員の職務の確認や情報交換の場を設定しています。また、市立図書館の職員が講師となって、本の修理や選書の仕方を学ぶ研修も実施しています。
- ・令和6年度は読育アドバイザーの講演会を開催し、図書専門員として必要な知識や技術の習得の支援を行いました。
- ・令和7年度はワークショップを開催し、図書専門員間の情報共有と子どもの読書率を高める取り組みについて意見交換を行いました。（第4章にて後述）

④読書活動の推進

目標指標：市立図書館の児童図書年間貸出冊数（15歳以下1人当たり）

【目標】（12.7冊／年より）増加させる

【実績】14.5冊／年（令和6年度）

【前回】12.7冊／年（平成30年度）

- ・MIRAINI365Booksとして、インスタグラムと紙通信で火・木曜日は絵本、土曜日はヤングアダルト、日曜日は児童書の読書案内をしました。
- ・「絵本だより」「本だより」を年4回発行して保育所等・小学校に配布、図書館内に設置して本を紹介しました。

⑤読書離れ世代の読書関心向上

目標指標：市立図書館の年間館外貸出冊数（16～20歳1人当たり）

【目標】3.0冊／年

【実績】1.6冊／年（令和6年度）

【前回】1.8冊／年（令和2年度）

- ・市内高等学校の図書委員の生徒や、図書館で職場体験をした生徒等が、自分のおすすめ本を手作りポップで紹介するコーナーを設けています。

⑥家読（うちどく）の推進

目標指標：家族間で本に関することを話題にする児童生徒の割合

【目標】小学生70% 中学生50%

【実績】小学生40.3% 中学生29.7%（令和6年度）

【前回】小学生53.8% 中学生46.6%（令和2年度）

- ・年一回、幼児向け、小学校1～3年生向け、小学校4～6年生向け、中学生向けに、家読おすすめ本リストを発行し、学校に配布しています。
- ・「家読講座」で、読書手帳の配布と図書館システムを活用したシールの出し方等の周知を図りました。

3 今後の課題

①ブックスタート事業

受け取った絵本を活用している保護者の割合は目標を下回ったものの、まったく活用していないという保護者はおらず、アンケートに回答したすべての保護者が事業の継続を希望しています。

市立図書館へ本を借りに来るのが難しい保護者の方に対しても、子どもの成長に応じた本の紹介等ができるよう健康診査に合わせ、ブックスタートのフォローアップとして絵本の紹介チラシを配布することで、読書活動への継続的な支援を行います。

②読書の意義と重要性の広報 ③魅力ある学校図書館づくり

④読書活動の推進 ⑥家読（うちどく）の推進

学校以外で読書をまったくしないという中学生の回答が、前回調査よりも3倍以上に増えました。朝読書をしていない学校も増え始めており、このままでは学校でも家でも読書をしない不読者が増えてしまう懸念があります。読書環境を整備し、市立図書館に来なくても、学校図書館で市立図書館の本を読んでもらえるよう、市立図書館と学校図書館がさらに連携していく必要があります。また、図書館のみならず、家庭や地域とともに読書環境の整備と活動の推進を図ります。

⑤読書離れ世代の読書関心向上

市立図書館の年間館外貸出冊数（16～20 歳 1 人当たり）の R6 年度実績は、1.6 冊／年と前回 R2 の 1.8 冊／年よりも減少しましたが、高校生の来館者が少ないわけではありません。ミライニの学習スペースに勉強に来る高校生は多いものの、本の貸し出しにまではつながっていない状況があります。学習スペースに近い書架にヤングアダルト、マンガ等の多くの高校生が興味関心をもつ分野の本を配架しており、高校生の動線を考慮した開架づくりを心がけています。

高校生らが館内でマンガ等を読む姿を見かけますが、貸出手続きをせずに本を読む場合は貸出冊数には含まれないため、実際の読書活動は数字よりも高いものと考えられます。ミライニが入る複合施設は貸出手続きをせずに建物内で読書が可能であることが特色であり、実態の把握には工夫が必要です。

おすすめ本の紹介ポップ作成や企画展示のアイデア出し等を高校生自らが企画することで関心を高め、一緒に図書館を運営していくことが重要です。またミライニで実施している様々なイベントも活用して、読書や本の貸し出しにつなげていきます。

第3章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

1 計画の目的

子どもが自ら学び、考え、人生をより深くより豊かに生きる力を育む

国の4つの基本方針、県の3つの施策の柱を意識し、本市独自に以下の基本方針を定めて子どもの読書活動推進の施策に取り組みます。

2 基本方針

1 読書を楽しみ、本に親しむ機会を増やす

子どもと本をつなぐ取り組みを行うことで、生活の中に子どもと本の接点をつくり出し、子どもたちが読書の楽しさを味わい、充実感や満足感を得る機会、本に親しむ機会を増やします。また、主体的に読書が行えるよう、子どもの視点に立った読書活動を推進します。

2 幼少期から読書習慣を身につけ、生涯にわたり継続できるよう支援する

乳幼児期からの読み聞かせを推進し、発達段階に応じた読書活動を支援することで読書習慣の定着を図ります。また、子どもたちが読書を通じて、主体的に学ぶ楽しさや知る喜びを体験することで、生涯にわたる探究心を培います。

3 学校・家庭・地域・図書館が一体となり、読書環境の充実を図る

子ども読書活動の推進には、子どもと関わる大人自身が活動の意義や重要性について理解し、支援する体制と機運をつくりあげていくことが不可欠です。そのためには、学校・家庭・地域・図書館が一体となり、協力して多様な子どもたちの読書環境の充実に取り組まなければなりません。また、本や読書が好きな子どもがやがて大人となり、子どもたちの読書活動を支援するという、世代を超えた読書活動推進の循環が形成されることも期待されます。

3 重点施策及び数値目標

No.	施策	目標指標	第2次 (平成28～令和2年度)	→	第3次 (令和3～7年度)	第4次 目標数値 (令和8～11年度)
1	ブックスタート事業	ブックスタートで受け取った絵本を活用している保護者の割合	93.0 % (平成30年度調査)	目標値	96 %	95 %
				実績	89.7 % (令和6年度調査)	
2	読書の意義と重要性の広報	1か月にまったく本を読まない児童生徒の割合	小学生 3.5 % 中学生 7.6 % (令和2年度調査) ※参考値	目標値	小学生 0 % 中学生 0 %	小学生 3 % 中学生 7 %
				実績	小学生 4.4 % 中学生 24.4 % (令和7年度調査) ※参考値	
3	魅力ある学校図書館づくり	学校図書館の児童生徒1人当たりの月間貸出冊数	小学生 10.0 冊/月 中学生 0.9 冊/月 (令和元年度実績)	目標値	小学生 12 冊/月 中学生 2 冊/月 (教育振興基本計画(後期)より)	小学生 10 冊/月 中学生 1 冊/月
				実績	小学生 8.1 冊/月 中学生 0.5 冊/月 (令和6年度実績)	
4	読書活動の推進	市立図書館の児童図書の年間貸出冊数(15歳以下の子ども1人当たり) ※1	12.7 冊/年 (平成30年度実績)	目標値	増加させる	15 冊/年
				実績	14.5 冊/年 (令和6年度実績)	
5	読書離れ世代の読書関心向上	市立図書館の年間館外貸出冊数(16～20歳1人当たり) ※1、※2	1.8 冊 (令和元年度実績)	目標値	3.0 冊/年	2 冊
				実績	1.6 冊 (令和6年度実績)	
6	家読(うちどく)の推進	家族間で本に関する話を話題にする児童・生徒の割合	小学生 53.8 % 中学生 46.6 % (令和2年度調査)	目標値	小学生 70.0 % 中学生 50.0 %	小学生 60 % 中学生 50 %
				実績	小学生 40.3 % 中学生 29.7 % (令和6年度調査)	

※1 該当年代の貸出数を、市の該当年齢人口で割ったもの

※2 市立図書館の統計の区分が5歳刻みであるため、19歳・20歳の数値も含まれる

第4章 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の取り組みについて

1 計画推進のために

(1) ワークショップの開催

読書習慣の定着に重要な小学生期、中学生期の読書活動推進において、学校図書館が果たす役割は大きく、第3次計画からの変更点として、基本方針に「学校・家庭・地域・図書館が一体となり、読書環境の充実を図る」を加えました。そして、学校図書館の運営を担う図書専門員（各小中学校に配置）を対象に、ワークショップを開催しました。

(2) 概要

ワークショップは、図書専門員間の情報共有と子どもたちの読書率を上げる取り組みについての検討を目的に、2日間開催しました。その結果、以下の3点のような意見をいただきました。（詳細は資料編を参照）

計画期間内にいただいた意見をすべて実現することはできなくても、実現可能なものから、学校・図書館等で連携をして取り組みを進め、子どもの読書習慣の定着を目指します。

①学校図書館の本の紹介、PR

- ・学校図書館の新着本について、家庭に案内する
- ・図書委員がおすすめ本の紹介文を作成し、冒頭部分を校内放送で紹介する
- ・教員が本の推薦文を作成し、写真とともに本を紹介する
- ・おすすめ本のPOPを作成し、学校間で共有する

②学校図書館の運営の工夫

- ・各学校の図書館の様子を写真に撮り、工夫している点や悩みを共有する

③市立図書館との連携

- ・市立図書館の本の貸出と返却を各学校でできるような仕組みを検討する
- ・学校図書館と市立図書館の図書管理システムを統合し、横断検索を可能にする

2 関連施策・事業一覧

基本方針 1

読書を楽しみ、本に親しむ機会を増やす

①読書を楽しむ

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
01	◇「絵本作家講演会」の開催	絵本作家等による講演会等の実施	市立図書館
02	◇市立図書館の夏休み企画展示	夏休み期間中、読書感想文向けの課題図書や指定図書、工作、自由研究向け参考図書等の展示をするコーナーを設置	市立図書館
03	◇親子手作り絵本講座	創作したお話と自分の描いた絵により絵本を作成するワークショップを開催	市立図書館
04	◇読書イベントの開催	ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの書評合戦「ビブリオバトル」や、一定のテーマを立てて一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介する「ブックトーク」等「人を通して本を知る、本を通して人を知る」イベントの開催	市立図書館
05	◇おはなし会・読み聞かせ会	児童センター、子育て支援センターでの絵本の読み聞かせ等の実施 図書館ボランティア「あさの葉会」、「絵本の部屋」、図書館スタッフによる読み聞かせ会(土曜おはなし会)の実施	保育こども園 課 市立図書館

②本に親しむ機会を増やす

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
06	◇市立図書館の図書のPR	広報、HP、情報サイト等での市民向け広報活動の実施	市立図書館
07	◇中央図書館での郷土作家コーナーの常設・活用	中央図書館の「郷土作家コーナー」を発信拠点とした、ふるさとを知る・学ぶツールとしての資料の提供、酒田の自然や文化・人をより身近に感じられる場の創出	市立図書館
08	◇「絵本だより」の発行	新刊や人気の本等の情報提供	市立図書館
09	◇市立図書館利用登録申込カード(子ども用)の配布	乳児期からの図書館利用へのきっかけのためブックスタート時に配布	市立図書館
10	◇「読書手帳(乳幼児版、小学校1～3年生版)」の作成、配布	(乳幼児版) 読んであげた本を記録し、親子の触れ合いの思い出を残す取り組みとして、ブックスタート時に配布 (小学校1～3年生版) 読書活動の振り返りや新たに読む本を選ぶ時の参考に、読んだ本を自分で書いて記録に残すツール 家族だけでなく友だちとも本を介した交流を広げ、読書に対する興味・関心を高めるきっかけ、コミュニケーションツールとしての活用	市立図書館
11	◇市立図書館でのこどもの読書週間行事の開催	通常の企画展示に加え、児童図書関連の企画展示を多く実施	市立図書館
12	◇市立図書館除籍資料のリサイクル	市立図書館の除籍した本(リサイクル図書)を利用したい方に無償で提供	市立図書館

③もっと図書館を活用する

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
13	◇学校巡回文庫の実施	国語教科書の単元に紹介されている本に教科書の巻中、巻末等で紹介されている本の中から子どもたちが選んだ本を加えたセットを市立図書館から貸し出す (対象学年：小学校6年生・中学校1年生)	市立図書館
14	◇市立図書館の団体貸出の実施、利用促進	学校、保育所等、学童保育所等団体が使用しやすいよう、貸出期間を長く、貸出上限冊数も多く設定して市立図書館の本を貸し出す	市立図書館
15	◇図書館を使った調べ学習の推進と講座の開催	「図書館を使った調べる学習コンクール」の開催 作品制作をととした子どもたちの調べる学習を支援	市立図書館

基本方針2

幼少期から読書習慣を身につけ、生涯にわたり継続できるよう支援する

①読書習慣を身につける

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
16	◇ブックスタート支援事業 (3か月児健康診査時)	3か月児健康診査時に読み聞かせ体験、絵本・情報誌の配布 絵本をととした親子の触れ合いのきっかけづくり 赤ちゃん向けおすすめ本の展示・紹介、「おすすめ本リスト」の配布	市立図書館 健康課
17	◇ミライニベビーハグ	ブックスタート支援事業のフォローアップ 家庭での乳児への読み聞かせをするための知識と実践 (対象：12か月までの乳児と保護者)	市立図書館
18	◇親子ふれあい遊び(9か月児健康相談時)	ブックスタート支援事業のフォローアップ 親子ふれあい遊びの中での読み聞かせ体験、「家読おすすめ本リスト」の配布	健康課 市立図書館

②読書習慣継続の支援

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
19	◇家読(うちどく)のPR	年齢に応じた「家読おすすめ本リスト」の作成・配布、HP等への掲載	市立図書館
21	◇中学生向け「おすすめ本リスト」の作成、配布	中学生向け「おすすめ本リスト」の作成、市内中学校への配布	市立図書館
21	◇中高生向け図書の充実	市立図書館内へのヤングアダルトコーナーの設置及び蔵書の充実	市立図書館
22	◇手作りポップでの本の紹介、展示	おすすめ本のポップの作成、市立図書館内での展示 本を読むきっかけづくり、読書意識の向上	市立図書館
23	◇中高生との連携による図書館企画運営	各校の図書委員や図書館、読書に関心のある生徒によるヤングアダルトコーナー運営への参加 「子ども目線」で積極的に企画	市立図書館
24	◇「家読(うちどく)講座」の開催	家庭での読書活動、読み聞かせの意義や重要性を周知する講座の開催	市立図書館

基本方針3

学校・家庭・地域・図書館が一体となり、読書環境の充実を図る

①読書環境の充実

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
25	◇市立図書館、児童センター、子育て支援センターの図書の実と読書環境の整備、貸出の促進	子どもの発達段階に応じた絵本や児童図書、子育て支援関連本の充実 家族でゆっくり読書ができる場の整備	保育こども園課 市立図書館
26	◇my 本棚のレビュー機能の活用	自分が読んだ本の感想等を公開、閲覧することができる（非公開で読書記録として使用することも可能）市立図書館 HP の機能 本を読むきっかけづくり、読書意識の向上	市立図書館
27	◇ブックスタート読み聞かせボランティアの養成	ブックスタート読み聞かせボランティア養成およびフォローアップ講座の開催	市立図書館
28	◇読み聞かせボランティア講座（基礎講座・ステップアップ講座）の開催	読み聞かせに関する講義、実技研修及び読み聞かせ活動での悩み事の相談、解決方法等の指導 ボランティア活動の場の提供、支援	市立図書館
29	◇図書館読み聞かせボランティアへの支援	図書館ボランティア「絵本の部屋」による「絵本の部屋だより」の作成・配布	市立図書館

②学校図書館の充実

協力・連携する施策・事業		内容、説明	担当部署
30	◇学校図書専門員の勤務時間・勤務日数の維持	学校図書館の本と子どもの「つなぎ役」である学校図書専門員の、子どもと接する時間を確保	学校教育課
31	◇司書教諭、図書専門員等教職員の研修の実施	図書専門員、図書館教育及び読書指導担当教諭を対象にした研修会「図書専門員研修会」の実施 市立図書館と連携した研修講師の派遣	学校教育課 市立図書館
32	◇学校図書館蔵書管理システムの更新	子どもたちの利便性の向上を図るための管理システムの更新	学校教育課
33	◇学校図書館環境の整備	学校図書館改装を希望する学校への講師派遣等の支援	学校教育課
34	◇学校図書館と市立図書館の連携	学校図書館のニーズに合わせた団体貸出の実施	学校教育課 市立図書館

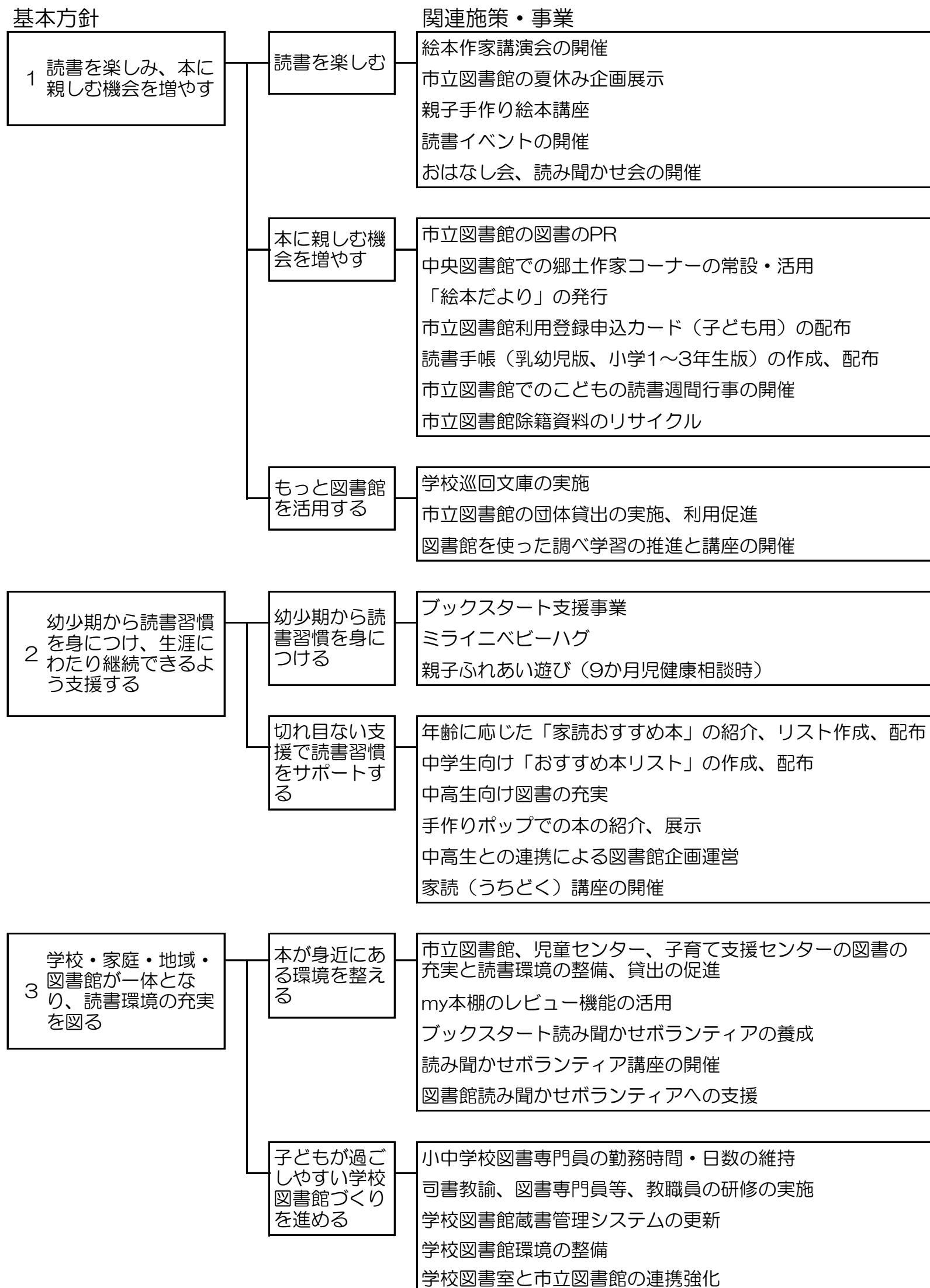
資料編

- 第4次酒田市子ども読書活動推進計画の体系図
- 子ども読書活動推進計画「読書に関するアンケート」結果
- 小中学校図書専門員によるワークショップの詳細

計画の目的

子どもが自ら学び、考え、人生をより深くより豊かに生きる力を育む

基本方針



児童・生徒向けアンケートの対象者数と回答者数

令和7年 (3月)	児童・生徒				保護者			
		対象数	回答数	回答率		対象数	回答数	回答率
	小5	680	365	53.7%	小5	680	339	49.9%
	中2	749	546	72.9%	中2	749	263	35.1%
	計	1,429	911	63.8%	計	1,429	602	42.1%

【令和7年】

※市内のすべての学校の当該学年のすべての児童・生徒を対象に、GIGAスクール端末によるアンケート調査。
保護者は連絡用メールでURLを送付してアンケート調査。

令和2年度 (5月)	児童・生徒				保護者			
		対象数	回答数	回答率		対象数	回答数	回答率
	小5	463	430	92.9%	小5	463	388	83.8%
	中2	197	131	66.5%	中2	197	119	60.4%
	計	660	561	85.0%	計	660	507	76.8%

【令和2年度】

※平成27年度調査時と同。
アンケート実施期間がコロナウイルス感染症対策休校期間と重なったため、回収率が下がっている。

平成27年度 (5月)	児童・生徒				保護者			
		対象数	回答数	回答率		対象数	回答数	回答率
	小5	558	534	95.7%	小5	558	499	89.4%
	中2	205	197	96.1%	中2	205	144	70.2%
	計	763	731	95.8%	計	763	643	84.3%

【平成27年度】

※市内のすべての学校の当該学年の児童・生徒のうち、複数学級のある学校では、1学級のみを対象。
このため、サンプル総数では、平成22年度と比較して約40%の児童・生徒が対象となっている。

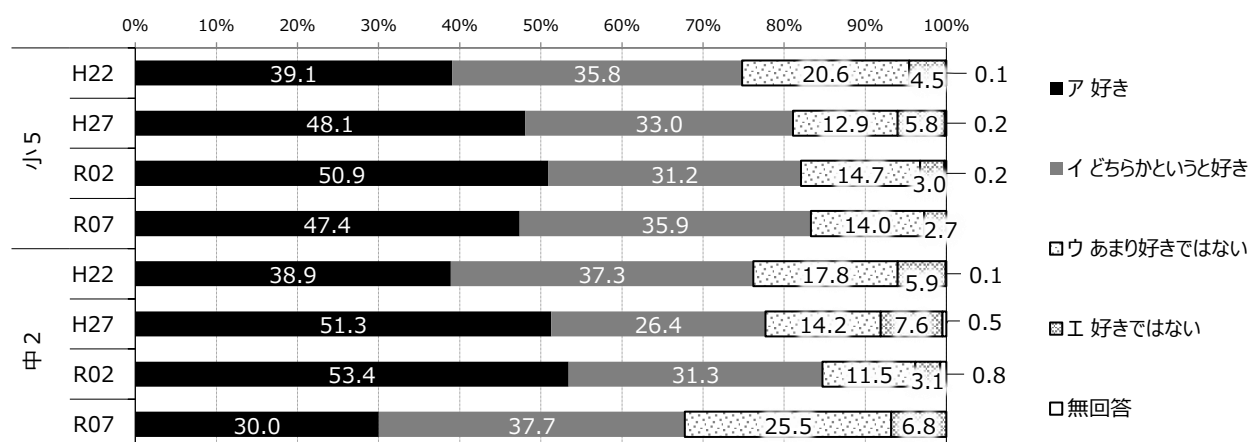
平成22年度 (10月)	児童・生徒				保護者			
		対象数	回答数	回答率		対象数	回答数	回答率
	小5	1,106	1,055	95.4%	小5	1,106	874	79.0%
	中2	1,100	1,051	95.5%	中2	1,100	665	60.5%
	計	2,206	2,106	95.5%	計	2,206	1,539	69.8%

【平成22年度】

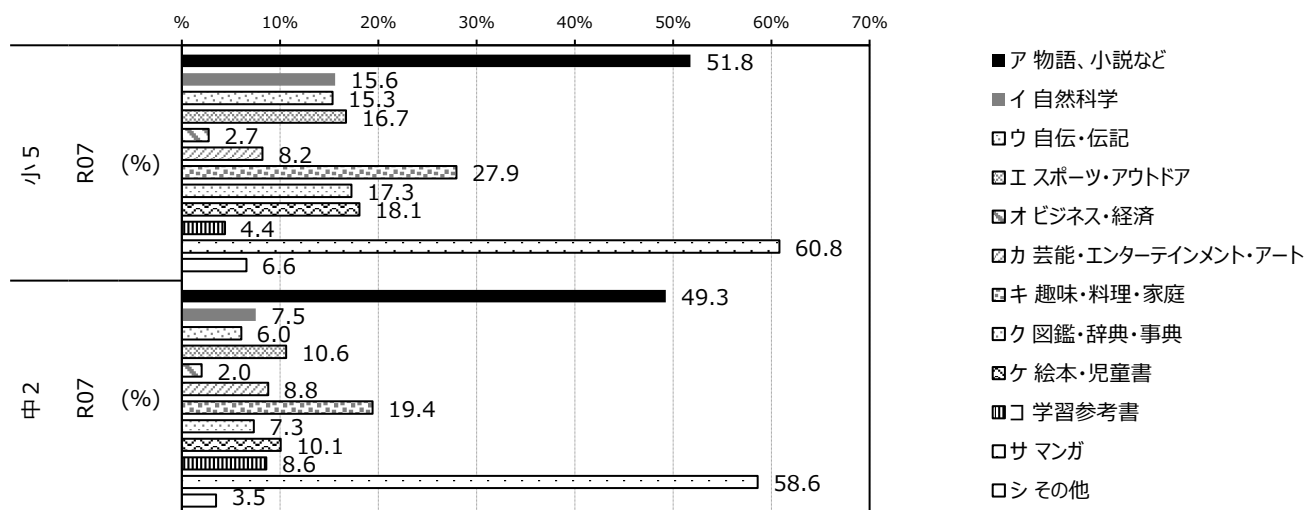
※市内のすべての学校の当該学年の、すべての児童・生徒を対象。

(1) 児童・生徒向けアンケートの集計結果

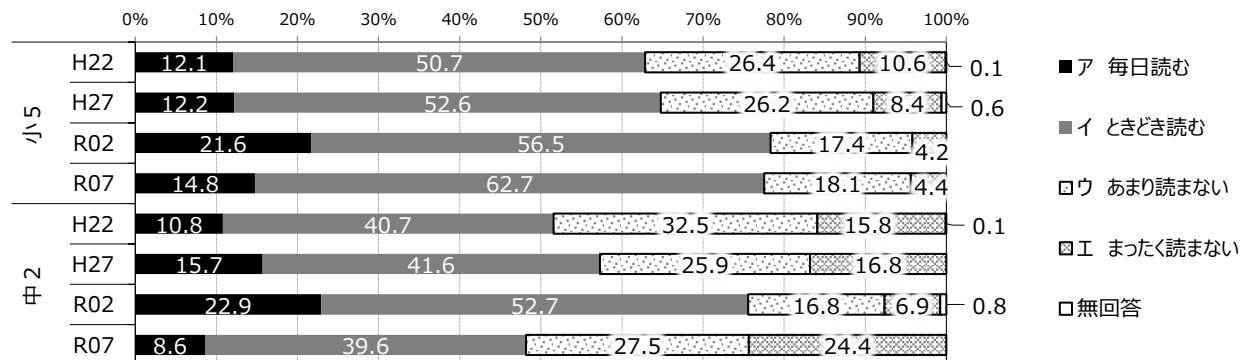
問①-1 本を読むのが好きですか。(1つ選択)



問①- 2 ア「好き」、イ「どちらかという好き」と答えた人に聞きます。どんな本を読むのが好きですか。（複数選択）

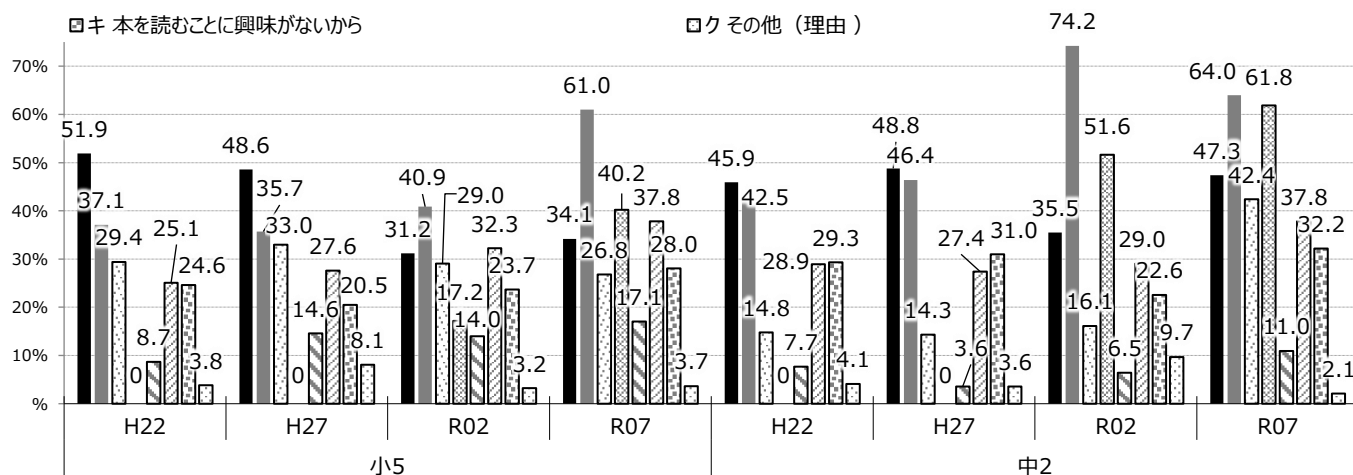


問②- 1 学校以外でどのくらい本を読みますか。（1つ選択）



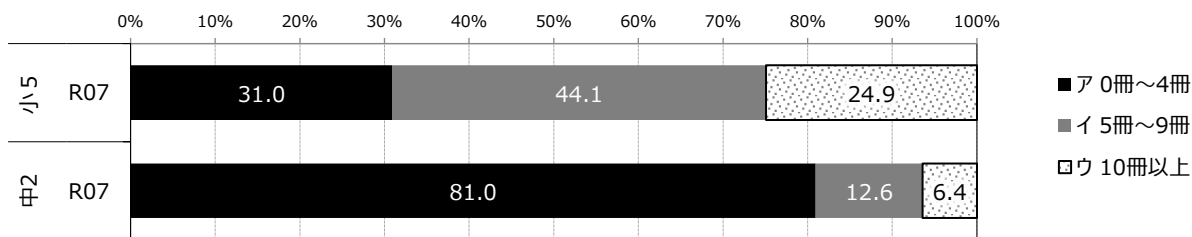
問②- 2 「あまり読まない」、「まったく読まない」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。（複数選択）

- ア 勉強や塾、部活動などでいそがしくて、本を読む時間がないから
- イ テレビを見たりゲームをしったりの方が好きだから
- ウ 外に出かけて遊ぶ方が好きだから
- エ スマートフォンやタブレット端末などで遊ぶ方が好きだから
- オ どんな本を読んだらいいのかわからないから
- カ 読みたい本がないから
- キ 本を読むことに興味がないから
- ク その他（理由）

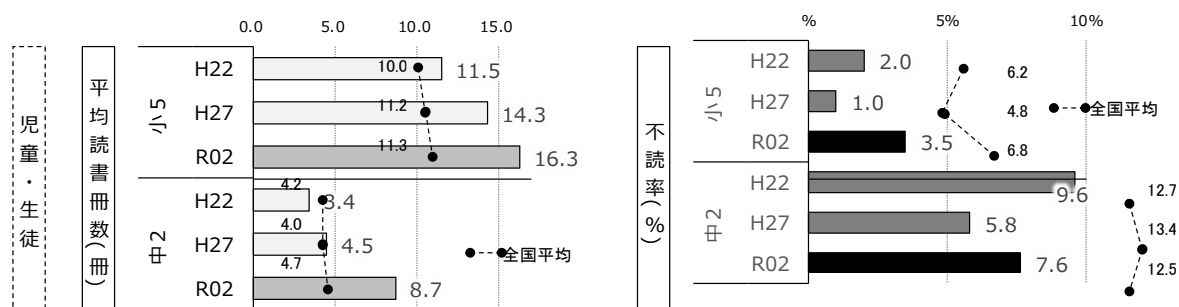


※「スマートフォンやタブレット端末などで遊ぶ方が好きだから」はR02からの設問

問③ 平均して1か月に何冊くらい本を読みますか。



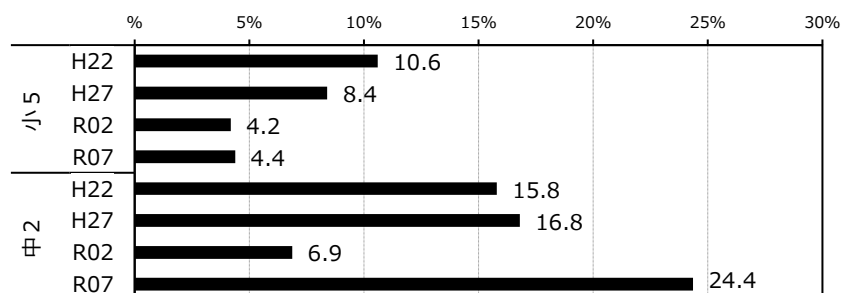
《参考》



※不読率とは、「1か月に1冊も本を読まなかった」と回答した人の割合。

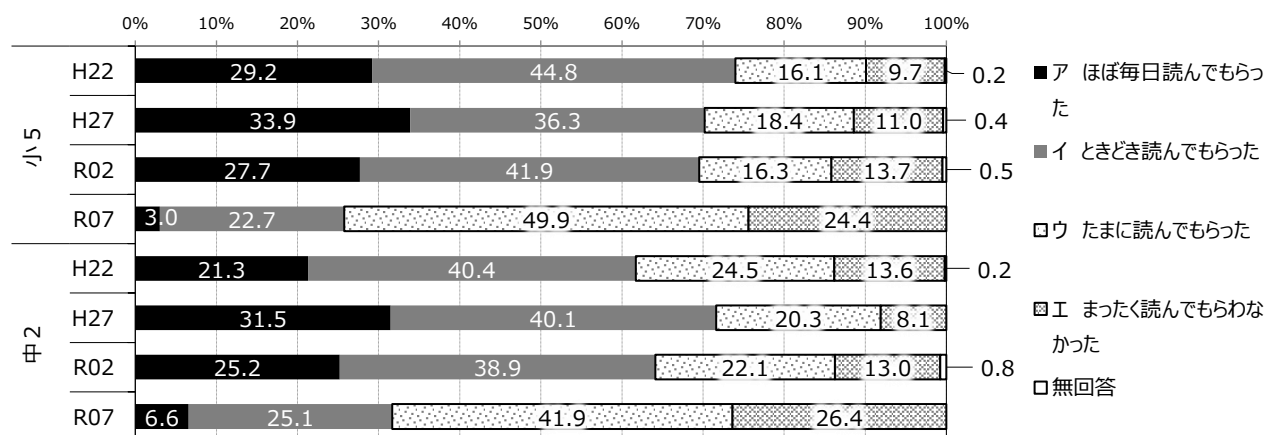
※R02の問③では「家で」と限定したが、H22、H27での設問では「平均して1か月に何冊」であり、学校や図書館等で読む層も含んでの数値となっており、単純比較できないため参考値。

※全国平均値についてはそれぞれ全国学校図書館協議「第65回学校読書調査」よりH22、H27、R01の小学4～6年生の平均値、中学生の平均値である。

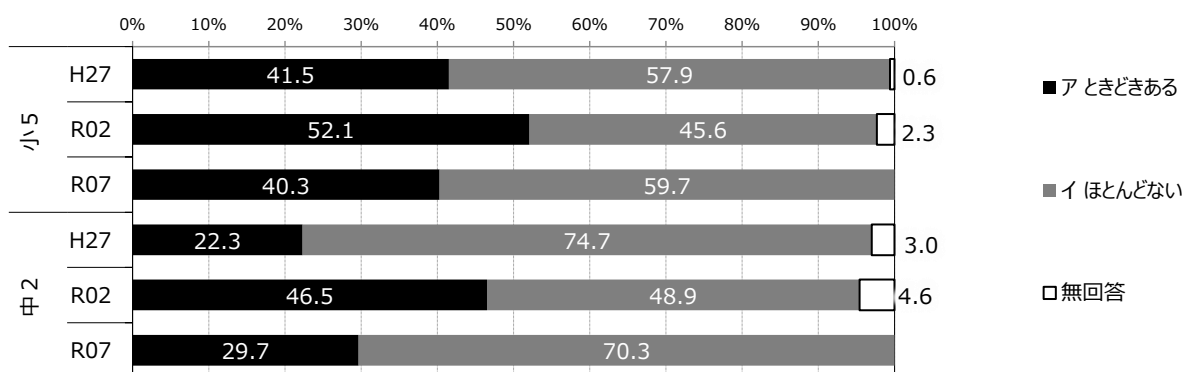


※問② - 1の学校以外で「まったく読まない」(参考値)

問④ 家族から本を読んでもらったことがありますか。(一つ選択)

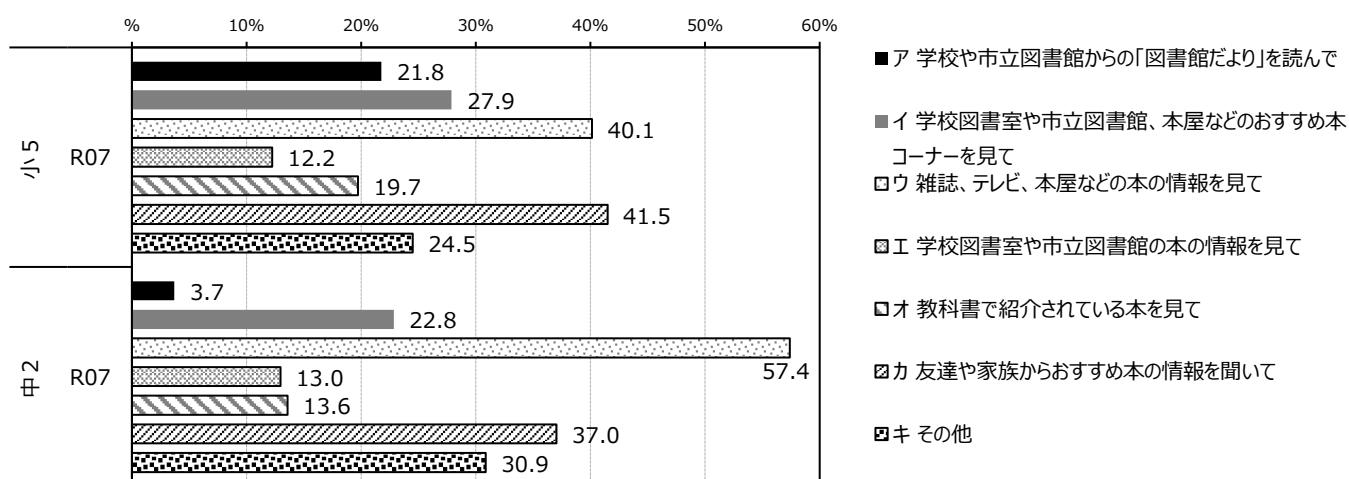


問⑤- 1 本に関係のあることで、家族とお話するときがありますか。（１つ選択）

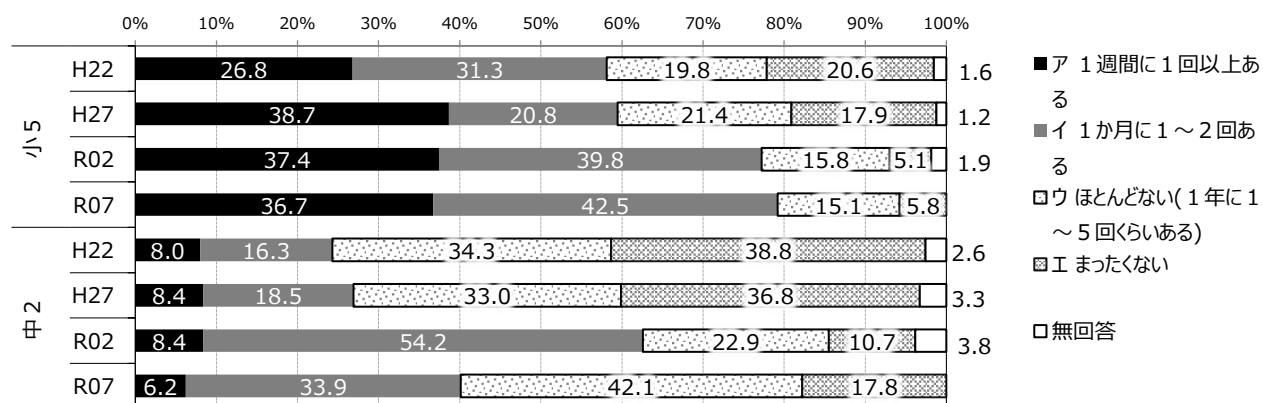


※H27からの設問。H27、R02の設問は「1週間に1回以上ある」「1か月に1～2回ある」「ほとんどない」「まったくない」から選択するものであったが、R07は「ときどきある」「ほとんどない」の2択であり単純比較できないため参考値。

問⑤- 2 ア「ときどきある」と答えた人に聞きます。どのようなきっかけで話をしましたか。（複数選択）

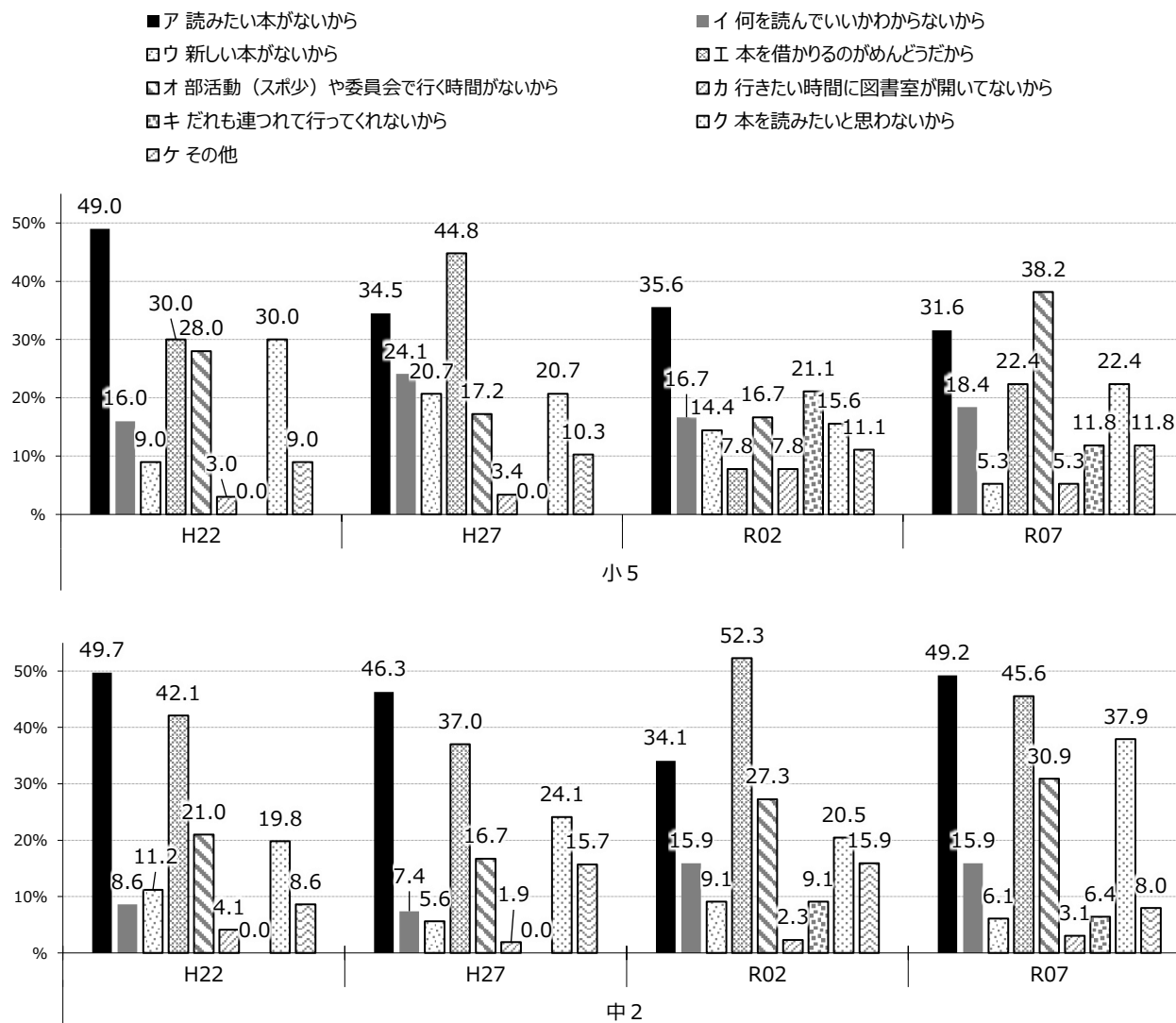


問⑥- 1 本のあるところ（学校図書室・市立図書館・本屋・店の本コーナーなど）をどのくらい利用していますか（１つ選択）



※ H22、H27での設問では「学校図書室」と「市立図書館」の別設問であり、2つを合計した数値のため、R02、R07とは単純比較できないため参考値。

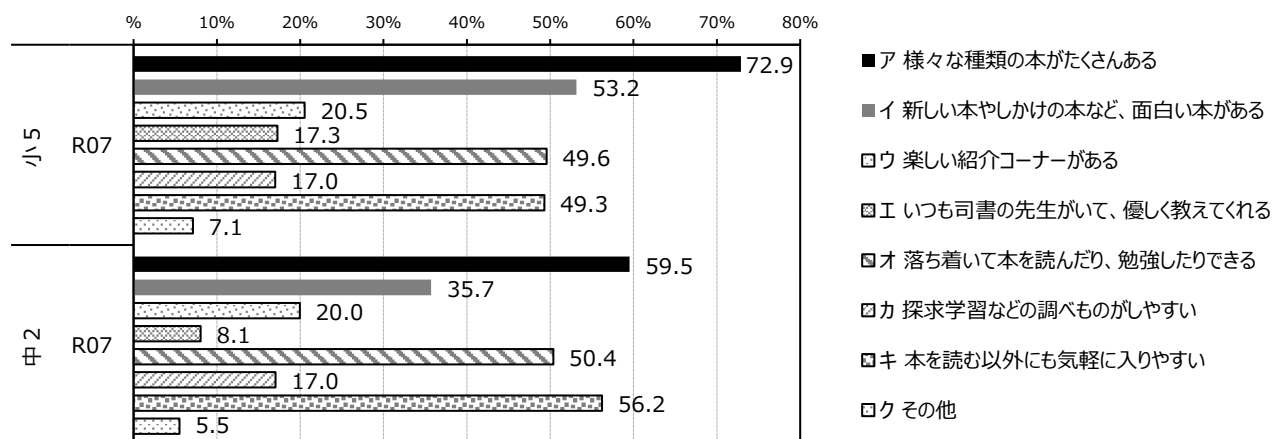
問⑥- 2 ウ「ほとんど利用しない」、エ「まったく利用しない」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。（複数選択）



※ H22、H27での設問では「学校図書館」に対してのみの設問であり単純比較できないため参考値

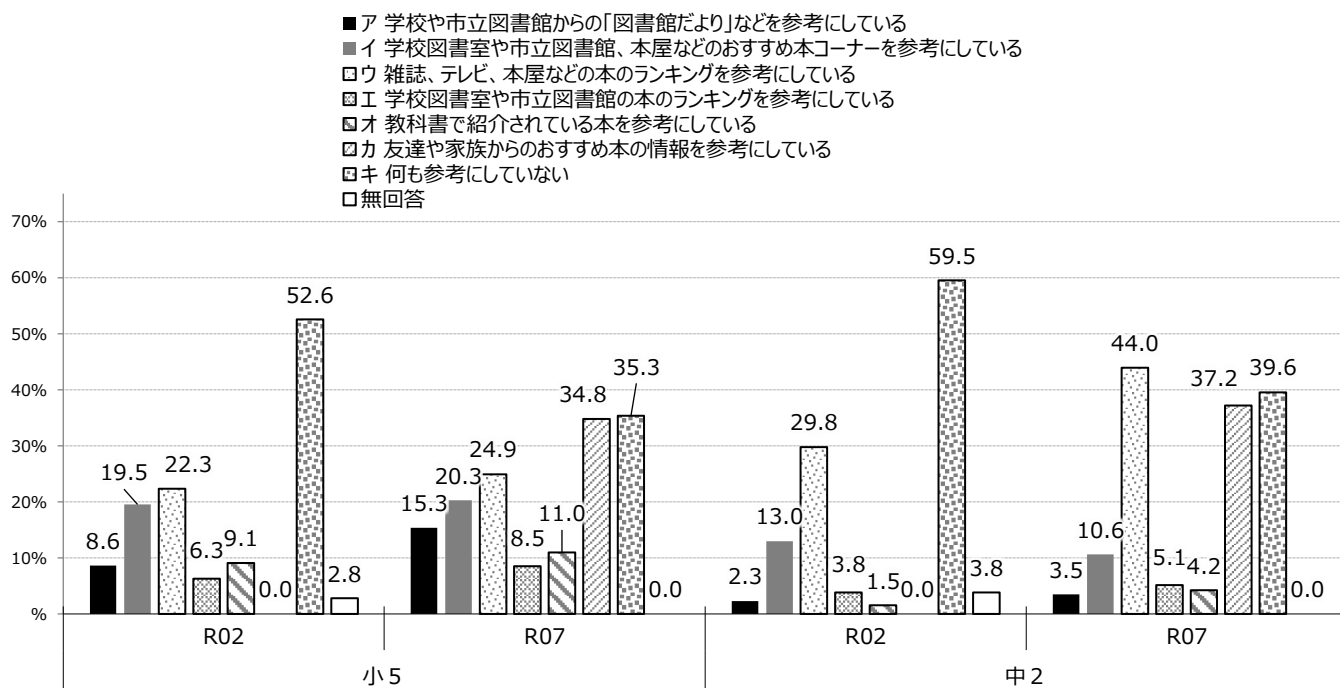
※ 「キ だれも連れて行ってくれないから」はR02からの設問

問⑦ どんな図書館（学校図書室、市立図書館など）に行きたいですか。（複数選択）



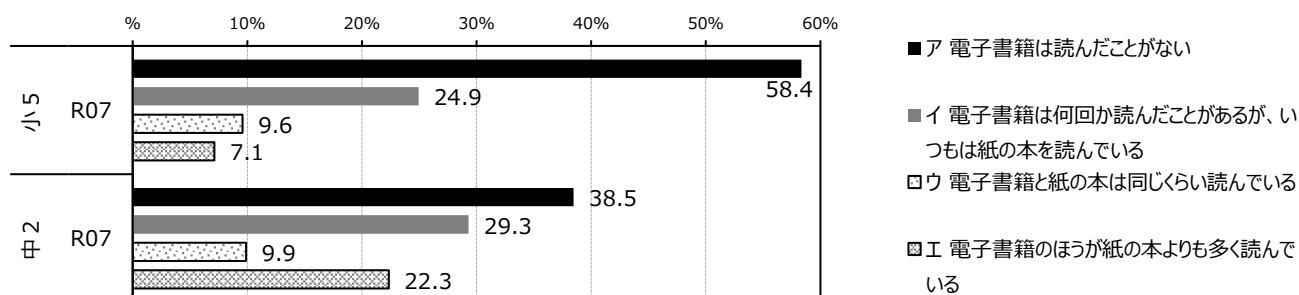
※ R07からの設問

問⑧ 本を借りる（買う）とき、何かを参考にして本を選んでいきますか。（複数選択）



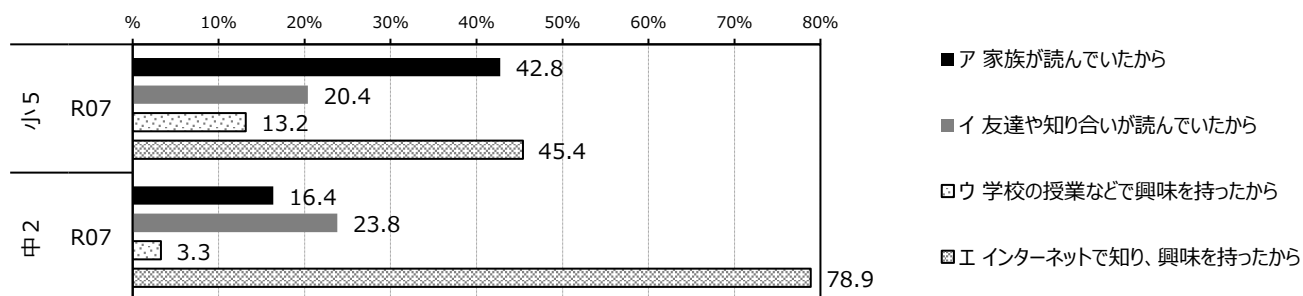
※R02からの設問。

問⑨- 1 電子書籍（タブレットやスマホなどで読む本）はどれくらい読みますか（1つ選択）



※R07からの設問。

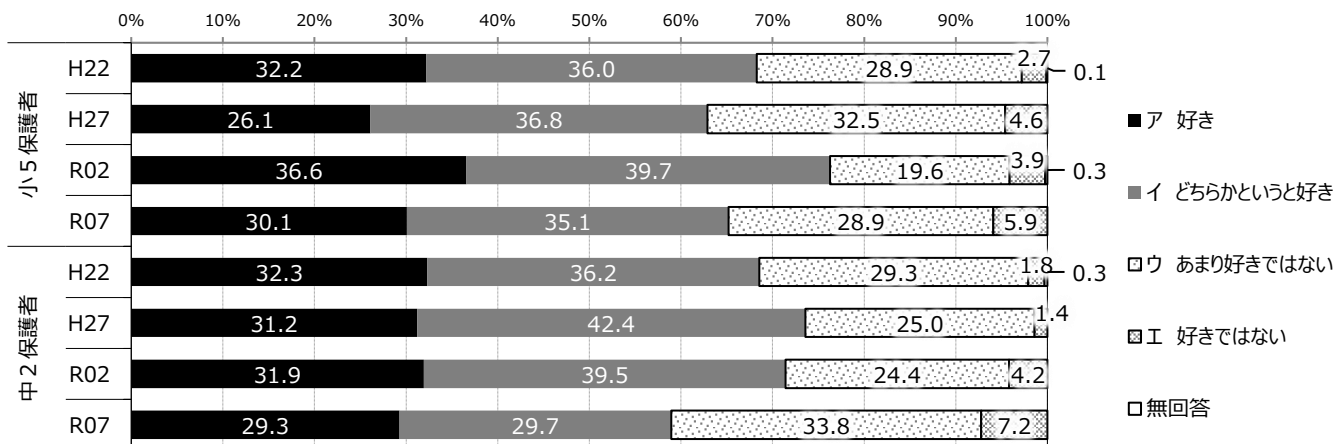
問⑨- 2 イ、ウ、エと答えた人に聞きます。電子書籍を読むきっかけについて、あてはまるものを選んでください。（複数選択）



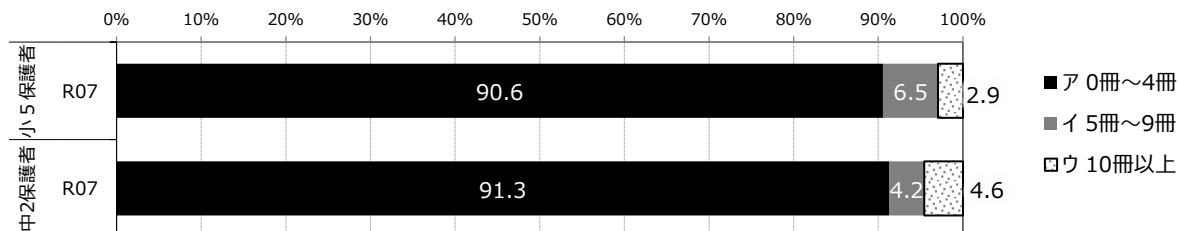
※R07からの設問。

(2) 保護者向けアンケートの集計結果

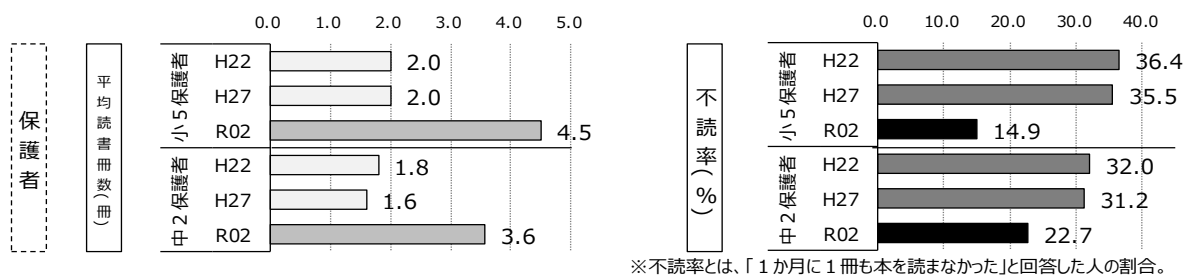
問① あなた（保護者）は本を読むのが好きですか。（1つ選択）



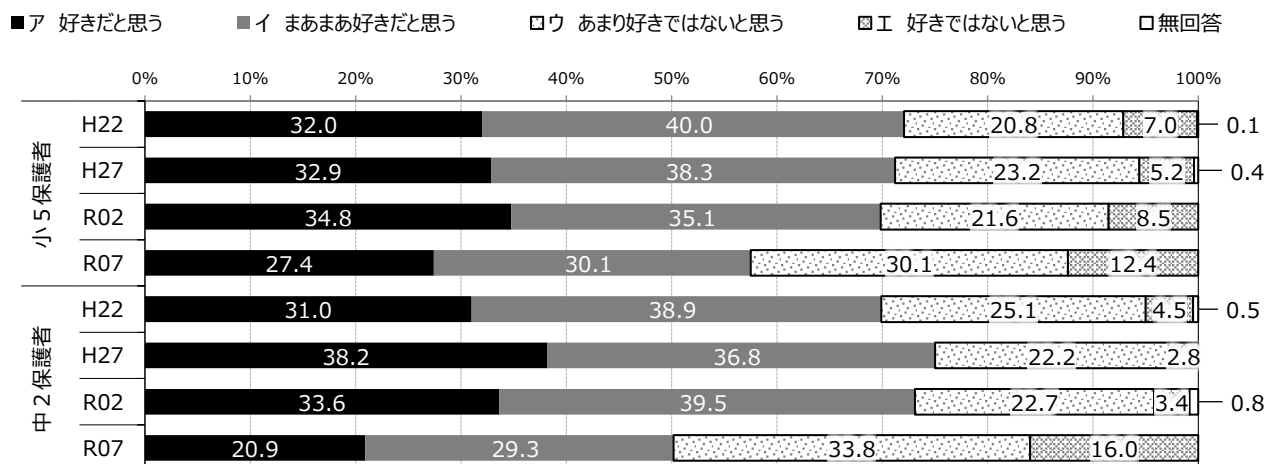
問② 平均して1か月に何冊くらい本を読みますか。



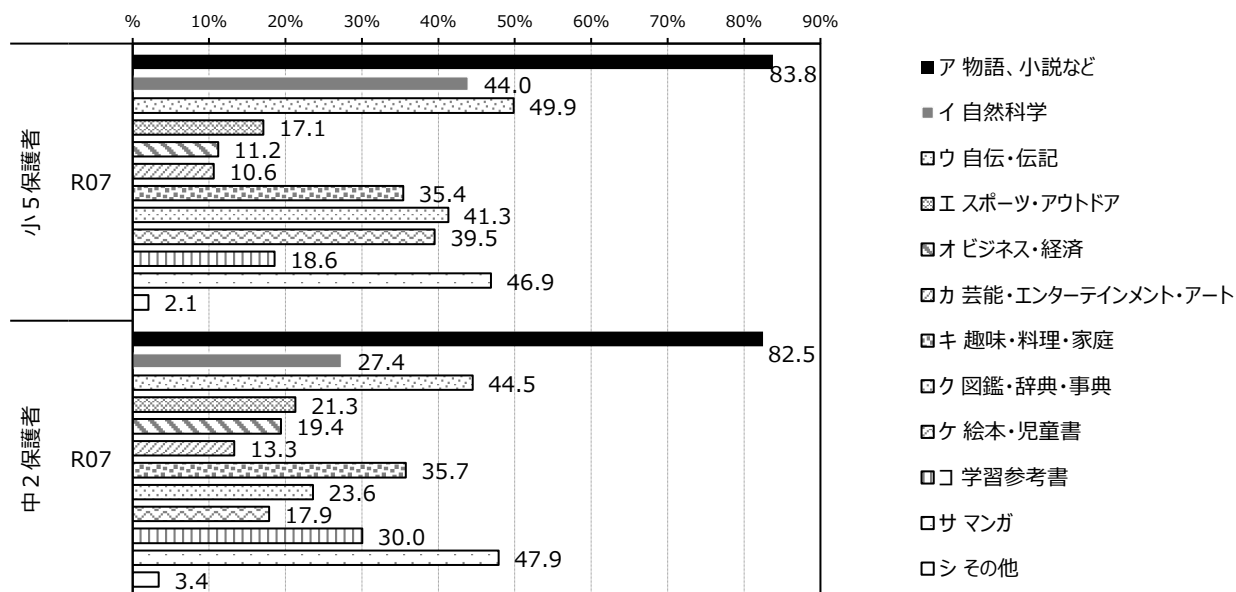
《参考》



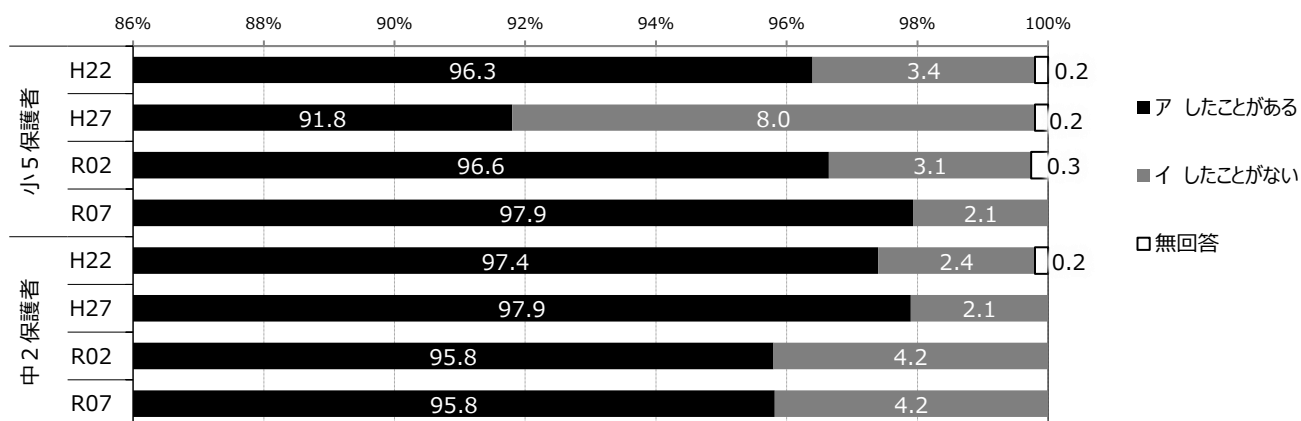
問③ お子さんは本を読むのが好きだと思いますか。（1つ選択）



問④ お子さんに読んでもらいたい本のジャンルについて伺います。（複数選択）

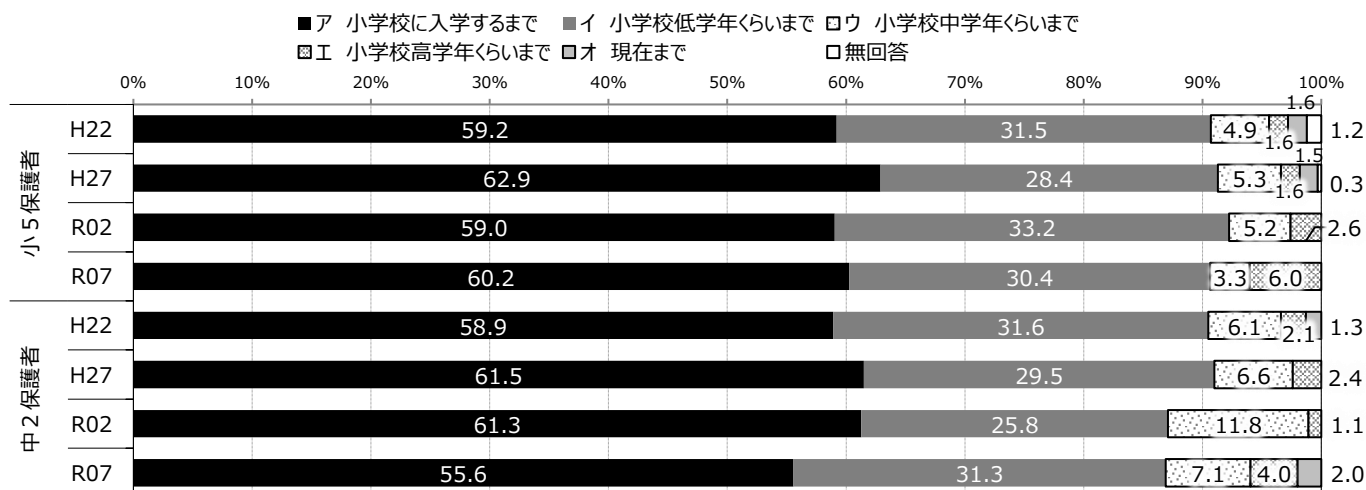


問⑤- 1 お子さんに本の読み聞かせをしたことはありますか。（1つ選択）

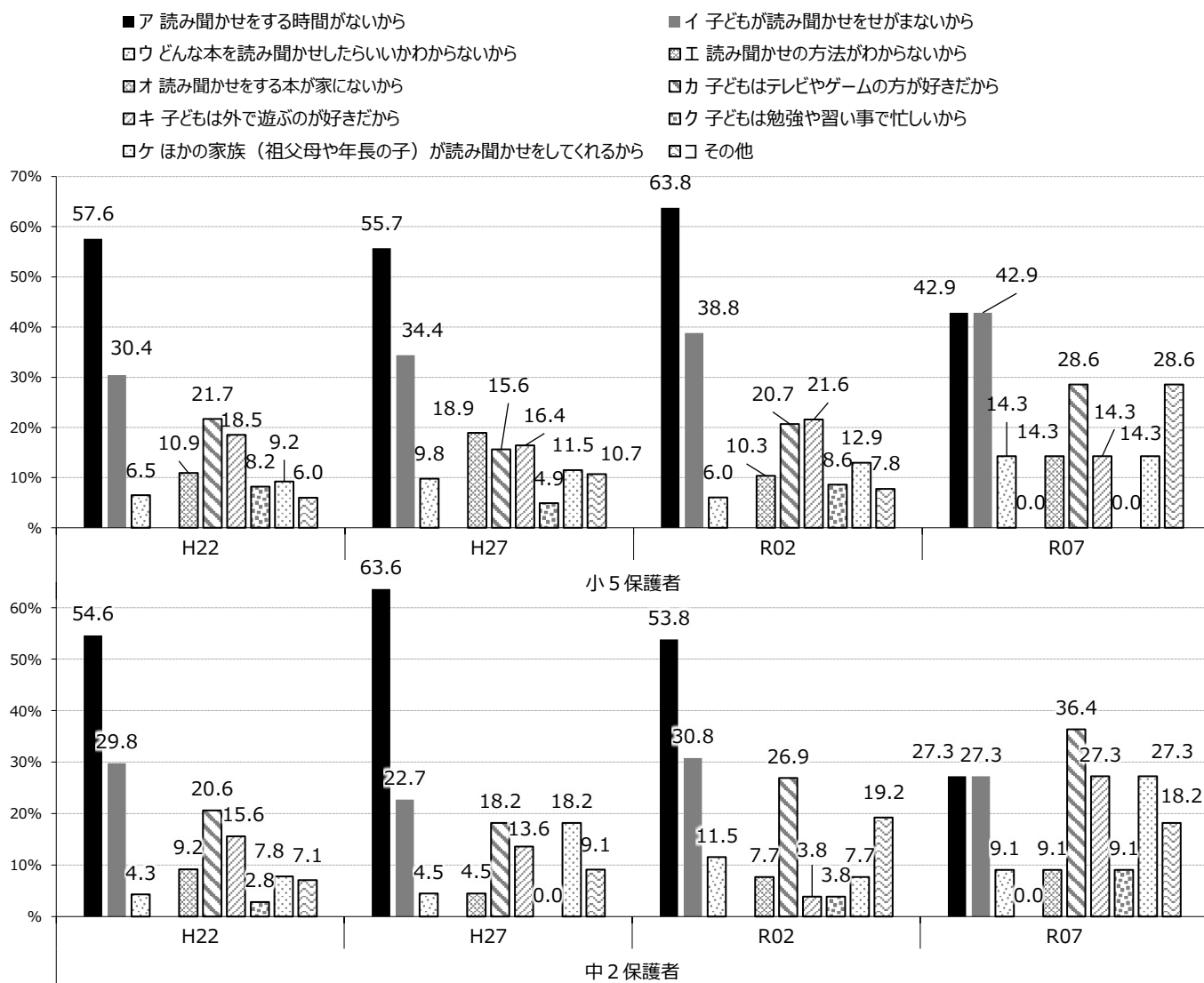


※R02までの設問は「ア よくする」「イ ときどきする」「ウ あまりしない」「エ まったくしない」から選択から選択するものであったが、R07は「ア したことがある」「イ したことがない」の2択であり単純比較できないため参考値。

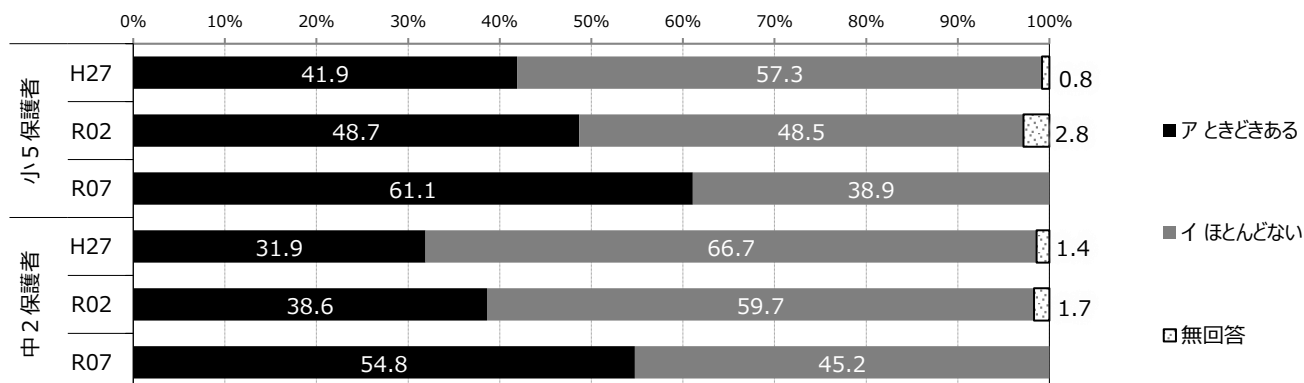
問⑤- 2 ア「したことがある」と答えた方に伺います。お子さんが何歳くらいまで読み聞かせをしましたか。（1つ選択）



問⑤- 3 イ「したことがない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。（複数選択）

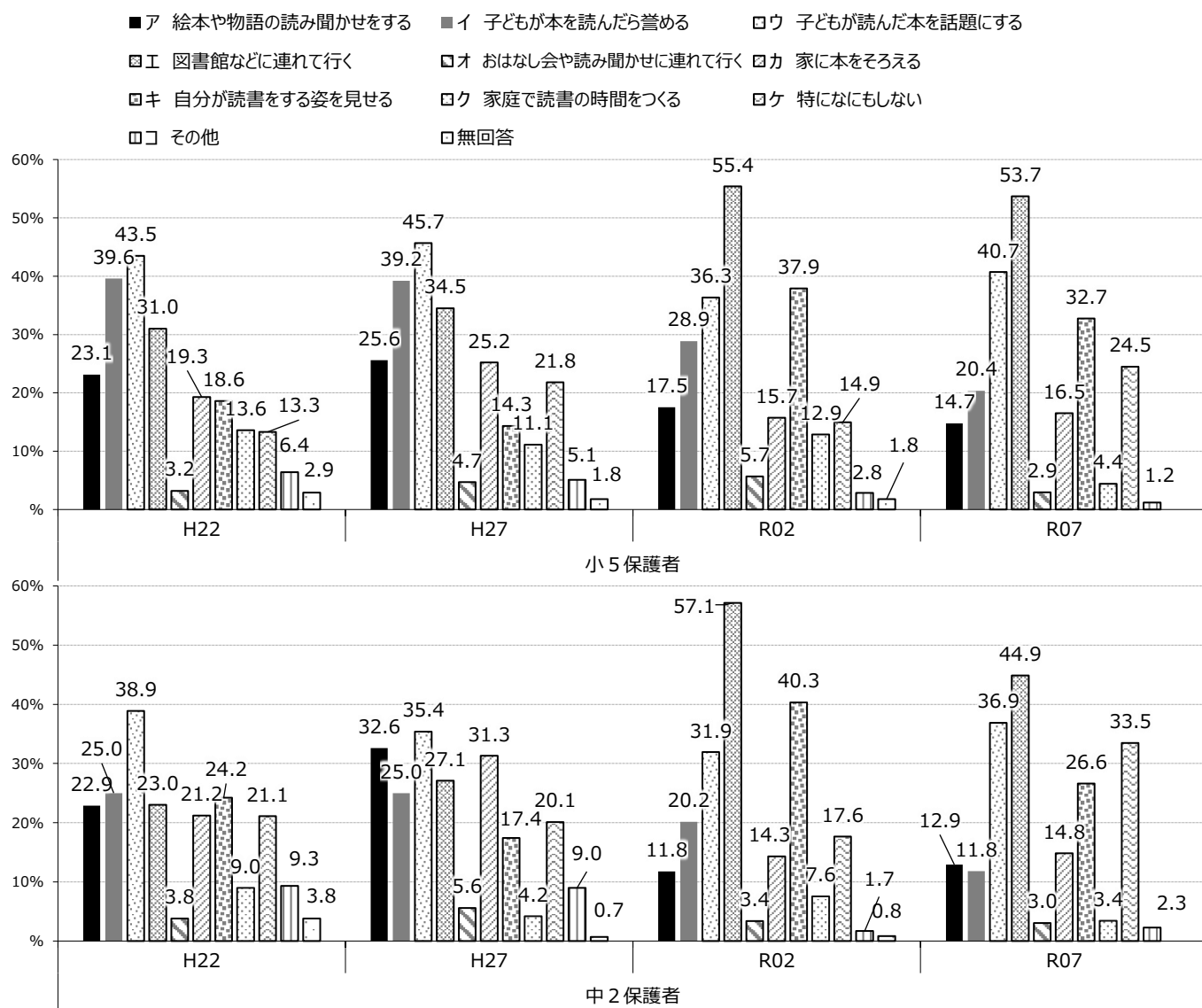


問⑥ 本に関係のあることで、家族でお話をするときがありますか。（1つ選択）

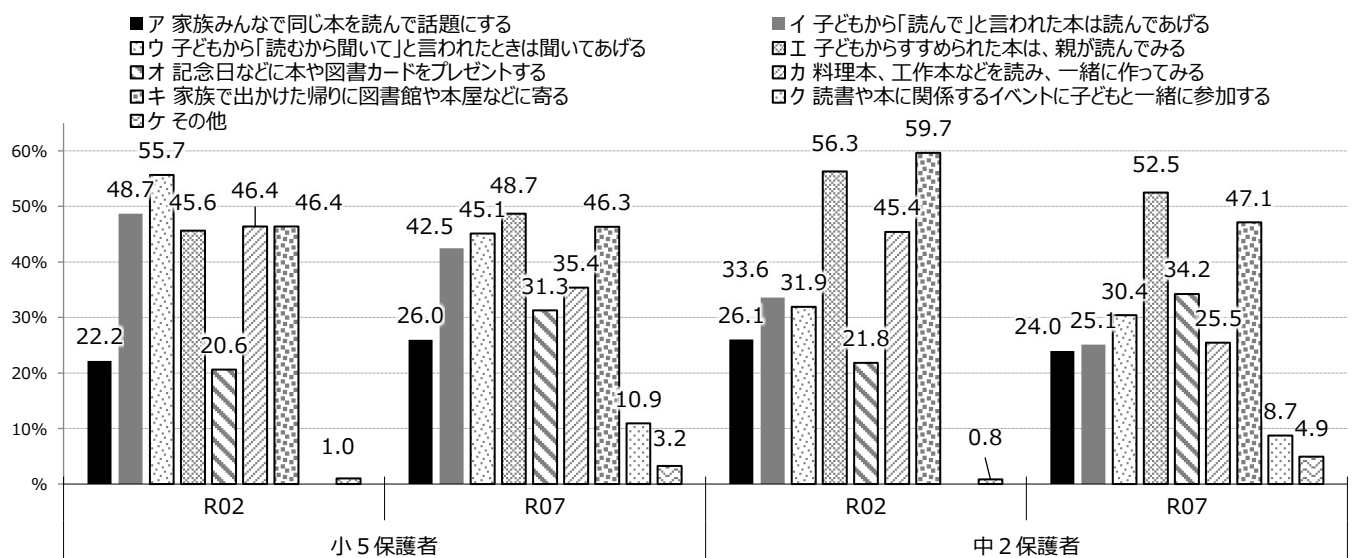


※ H27からの設問

問⑦ お子さんが本を読むきっかけ作りとして、ご家庭でどのようなことを心がけていますか。（複数選択）



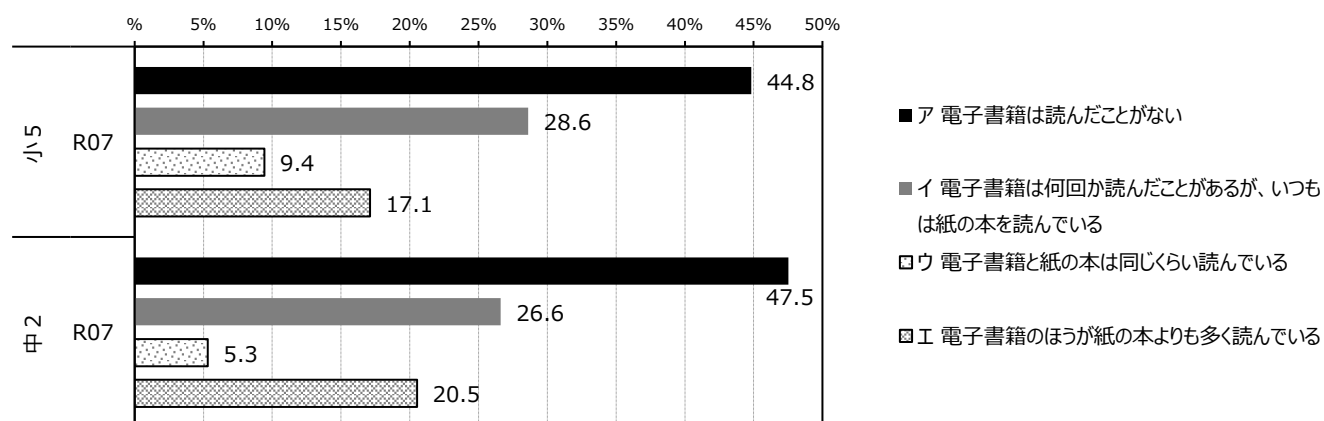
問⑧ 家読（うちどく）は、読書をきっかけに家族のコミュニケーションを大切にしようという活動です。ご家庭で取り組んでみたいと思うものは。（複数選択）



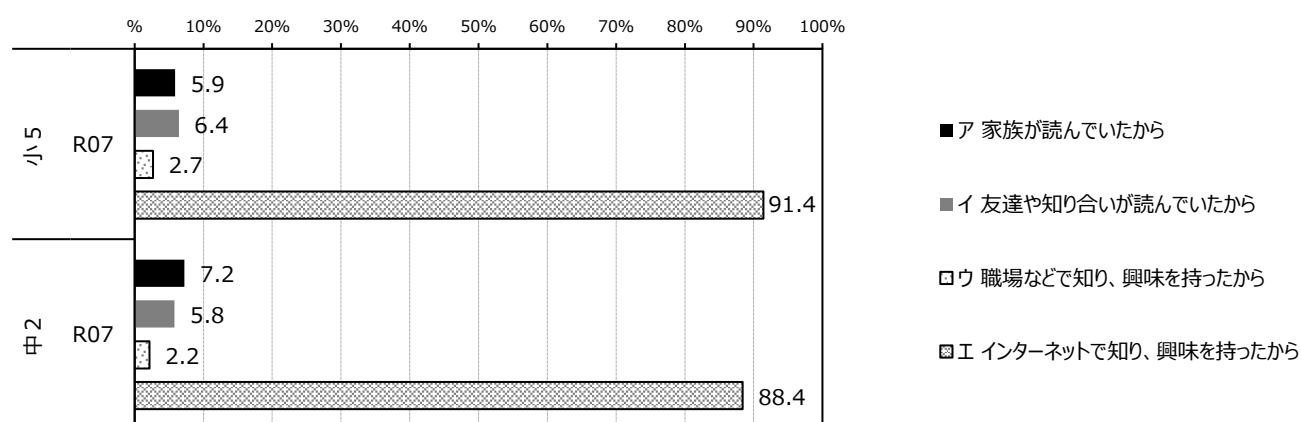
※ 「ク 読書や本に関するイベントに子どもと一緒に参加する」はR07からの選択肢

※ R02からの設問

問⑨- 1 あなた（保護者）は 電子書籍（タブレットやスマホなどで読む本）はどれくらい読みますか（１つ選択）



問⑨- 2 イ、ウ、エと答えた人に聞きます。電子書籍を読むきっかけについて、あてはまるものを選んでください。（複数選択）



第1回子ども読書活動推進計画ワークショップ 振り返りシートまとめ

やりたい・良いと思った取り組み

本の福袋（琢成小）／ミライニとの連携／予約システム／読ませる環境づくり／ハテナシート／他校図書室見学ツアー／本棚の整理／リクエスト本Box／スクールプロ／調べるコンクールの掲示

ミライニと学校で子どもに人気の本を共有して展示にいかせたりしたらいいなと思います。

それぞれの学校の状況で異なるので自分の学校と比較していきたいです。

読書推進をする際に、読ませる環境づくり（図書室のコーナー作成、授業での活用、ビブリオバトルなど）をすすめていくと良いように思います。

ハテナシート（ポプラディア）→文章の理解力につながる

予約については紙のを用意し書いてもらい、システムに登録する方法をとっています。

調べるコンクールの掲示をして好きなことをもっと深く調べる楽しさを伝えたい（子供たちの入選作品を見て）

こんなことを調べたいというアピールをミライニに伝えられるように子供たちに教えたい

予約システムを使っている学校があったので、本校でも導入できるか図書主任の先生と相談する。

予約システムは少人数だと使いやすいということで、ためしてみようかと思った。

人気の本はミライニにもあるので、ぜひ利用して欲しい。予約もできます。

琢成小さんの「本の福袋」（ミライニの取組を参態にしたようですが）は、楽しそうでした。（中身の見えない袋に委員さんや先生が「冒険好きな人用」などのテーマで本を入れて貸出する）

本の貸し出し、福袋作戦 いいな～と思いました。

他校図書室見学ツアー希望です。見たい・知りたいです

委員会活動をもっと活生化できたらと思い、琢成小の、本の福袋をやってみれたらと思った。せっかく選んでくれた委員会の子もたちが、本を探したり、おすすめて書いたり…。他の子どもたちへの本の紹介、図書室に来るきっかけ作り、今まで読んでいない本との出会いにつながるのでは?!と思った。

自分の学校の本棚がけっこうがちゃがちゃなので、児童が使いやすいように整理していきたい。

パソコン・予約システム

新しい本購入の仕方

リクエスト本のBoxをつくる

生徒さんの委員会活動（本の福袋）ととてもいいアイデアと思いました。

投書箱で生徒のリクエストなどを聞くことはいい案と思いました。

「スクールプロ」というソフトがあることを知った。

環境整備

図書館にエアコンを設置してほしい／インターネット環境が欲しい（図書データ検索のため）

エアコン付けて下さい。（教室にいるより図書室のほうが良い生徒さんもいます）

図書のデータ（情報、季節の展示用など）を知るために、図書室をネットがにつながる環境にしてほしいと思います。（学校によって、タブレットでつながっているところもあるとのこと）

図書専門員に図書館でインターネット環境を（wifi&タブレット）ないと市立図書館の所蔵情報すら調べられません

エアコンの入っている学校は子供たちが多く集って休み時間をすごしている。（少しにぎやかにはなるが）

第1回子ども読書活動推進計画ワークショップ 振り返りシートまとめ

環境整備

- エアコンのない学校が多いことを知り、恵まれていると思った。
- エアコンのない図書室も多いと知ったので、暑さ寒さの厳しい季節には、ミライニで過ごして欲しい
- エアコンつけてほしいです。読書進どころではないです
- 図書室にエアコンが無いのが、どの学校も困っている
- クーラーをつけてほしい。
- 児童の読書環境について整えてほしい（暑すぎて立入禁止、エアコンがこじれて立入禁止の学校さえある...）
- クーラーのある学校、wifiにつなげられる学校、クーラーはなくてもそれに準ずる機器がある学校はいいな、と思った。
- 同じような困り事（エアコンなど）をお持ちの専門員さんが多くて少し安心？した。早く涼しい図書館になればいいと思います
- エアコンもどの学校にも（図書室）ついていたらいいと思いました。（支援学級の生徒さんも利用）
- 環境が整えられていない。図書室の問題（エアコン）、勤務時間の問題、PCの問題
- 暑い図書室は子供たちにとってもとてもかわいそうです。図書専門員がいない昼休みの図書当番さんが、具合わるくなったりしないか心配です。子どもたちのためにもおねがいしたいです。
- PCのネットがつながっている学校はいいなと思いました。

専門員へのサポート

新任専門員への研修・サポート／パソコン操作研修

- 1年目で分からない事だらけだが他の専門員さんの話を聞く事が出来てとても勉強になりました。
- 1年目で、分からない事が多くあり、前任の方に電話でききながらやるしかなく...。基本的な事の研修があるとありがたいと思った。
- 初めて専門員になった人への引きつぎ、アドバイスがあるとよい。経験者として協力したい。
- 1年めの人にサポートを！
- パソコン操作の研修をしてほしい。
- パソコン操作の研修がないみんな困っていることかわかってほっとした。（私ひとりじゃなかった!）
- PC操作はどこの学校でも課題になっていることがわかりました。（ネット環境含む）USBバックアップなど。
- 任用・研修について改善が必要。なんとかして下さい！！

学校の先生との連携

図書担当の先生との連携不足／国語担当の先生との連携／交流方法（日誌を書く）

- 図書担当の先生との相談と情報交換が、なかなかできず困っていたが、学校の動きを把握して、こちらから、聞きにいくように、工夫したい
- 先生との報告、連絡、相談をもっとやりたい。1人で仕事をしていると、これでいいのかなと思う事がある
- 国語担当の先生との連携は大事
- 日誌を書いて先生方との交流をする

第1回子ども読書活動推進計画ワークショップ 振り返りシートまとめ

困りごと

週4日3時間勤務では読書を広める活動にまで時間がさけないですね。
 短時間勤務で、もう少しやりたい事があっても途中で終わらせて帰る事がある。
 時間がなく、やりたいことを進められない専門員さんが多く、その時間を作ることはできないかと感じた。
 引き継ぎは必要!!
 引き継ぎも大事
 USBが使用出来ないの、バックアップできない。どうしたら良いのか?
 USBを使用できないのは、データ移動のとき大変だし、バックアップとれないのは怖い…。
 先生との連絡もとりにくい
 人気ある本の貸出し順番をどうしたらよいか

読書率の低下

中学校の本の貸し出し率が小学校と違って下がってきている。月平均1人1冊いかない…(0.8冊とか?)
 話題の本等、入れたりしているが、なかなか借りてくれない。
 「借りなければいけない」→冊数を伸ばすため、ではなく「借りたい」になるとよいと思います

感想

学校や、いる先生などによって図書館運営に大きくちがいがあることにおどろいた。
 他の学校の現状を聞く事が出来たので良かった
 それぞれ課題はありながら、どうやったら図書と子どもたちが上手にかかわれるか真剣に考えて取り組んでいる人たちがばかりで、参考になった。
 他の学校さんの話が聞けて良かったです。
 もっと話きたいです!
 他の学校の話しを聞けて良かった。
 わからないことばかりだったが、それは当然!だったこともわかってほっとした。
 ワークショップは良かったです。時間が短くあわただしく感じました。
 他校の困りごとがわかって、自分だけではないと思い安心(?)した。
 ワークショップの時間がたりなかった。
 ワークショップは初めての参加で、新し取りくめそうなのが出来る
 日頃同じようなことを思っている人が多いと感じた。
 もっと時間があつたらいいな…
 国語の教科書に載っている本は、すぐにそろえられなくても、2~3年計画でそろえてもいいという考えに救われた
 今日の講習会で本の修理シールはがしの使い方などとても勉強になりました
 ミライニさんとの話があってとても良かったと思います
 (困り事がメインで解決策や参考になる取組などはあまりありませんでした。)
 自分の学校でもやってみたいと思いました。
 小学校でも中学校でも悩んでいる事は一緒に、話を聞いているだけでも参考になった。

第2回子ども読書活動推進計画ワークショップ 振り返りシートまとめ

やりたい・良いと思った取り組み

子どもたち（図書委員）のおすすめの本を書いてもらい、付箋に感想など自由に書いてもらう取り組み。

耳読：昼の放送などで、おすすめの本を読む。途中まで読んで続きは本を借りて読んでみてね、と読書欲を誘う方法。子どもたちに読んでもらってもいいかも。あえて途中でやめるのがポイント。継続しようとする脳の特性を活かしている。続きが読みたくなる。

「推しの一冊」という言葉。

新着図書を家庭に案内をだす取り組み。

移動図書館はいいですね。

禁退出の本の特別貸し出し。

特別な図書館の利用（ナイトウォーク？お月見・おばけ・こわい本まつり）

ナイトライブラリー、PTAの活動として、ぜひ。（夜の開放を学校図書室でも）

味見読書（最初の部分だけ読んで…）。

先生方に協力してもらい、推しの本の紹介。

新着図書案内（先生方、親にも）。

貸出ランキング。

ミライニとの連携。

「おすすめPOP大作戦」おもしろいと思いました。

「味見図書」とか知らなかった。

「新着図書リスト」人気本リストは出せるけど、保護者にも紹介するとは思いつかなかった。

「各学校の図書館の様子を知る（環境づくりが上手な専門員さんがいる）」とアイデアの共有、そして子どもの読書欲の増加につながるかもと思いました。

保護者に新刊情報を流すこと、やってみたいと思う。親と子の本についての話のきっかけになればよい。

POP作り苦手な人もみんなで協力できればいいと思いました。

各学校の図書室も見てみたい。（アイデアの共有）

ミライニ・市・学校図書館、3つの連携出来そうで楽しみ。

黒森小・松山小の親子読書、良い取り組みだと思った。

調べ学習の本を市立図書館からなるべく早く学校に届くシステム、実現できるといいですね。

先生や子どもたちからの「推し」の本の紹介、わりと読みたい気持ちに届くかも。

目にとまるカウンター脇におすすめの本をおくのは良いと思った。

テーマを決めて関連のある本を展示するのは良いと思った。

酒田市でも移動図書館があると良いかも、と思いました。

くるくる便を活用する方法は、多数あったので実現できたらいいなと思った。

新着図書のお便りを家庭に配布するのもいいと思いました。

「新着本の紹介」というのは、いいアイデアだと思いました。

新堀小の「新刊情報」は、ぜひやってみたいと思いました。

展示の写真をを見せてもらい、とても参考になりました。

くるくる便の活用は、多くのテーブルで提案されていた。（学校→ミライニ→くるくる便→学校）

児童会との協同で行う取り組みも良い提案だと思う。時間をみて、児童会への参加をして貸出冊数の向上に努めたい。

くるくる便活用したい。

第2回子ども読書活動推進計画ワークショップ 振り返りシートまとめ

感想

このワークショップに参加して良かったこと。読書率を上げる為に私達が出来ることを難しく考えてしまっていたが、ミライニさんと連携して、もっと新しい本、学校では買えない本を子どもたちに見てもらえたらいいなあと思いました。また、読み聞かせボランティアさんで、シニア層の方々と地域との連携で良いコミュニティが出来たら良いと思いました。

各校の専門員さんがどのような仕事をしているのか。それぞれの違いや自分に活かせることなど、様々知ることができた。たくさん話をして学ぶことが多かった。各校の実態は違えど一生懸命お仕事をしてくる姿が見えて、自分も頑張ろうと思った。「聴す（ゆるす）」を忘れずに日々すごそうと思った。また、このような機会を定期的に設けてほしいです。

自分が知らなかった取組み（アイデア）もあった。

図書専門員がフランクに話ができる場は必要だと思った。実践の交流ができることで次につながる。（学区ごとに集まっても）

お母さんのためにと借りていく児童もいる。

引継（マニュアル）と図書司書の先生からの情報でのみの状況で、図書専門員のお仕事をしていますが、いろいろな情報・環境・取組みを知り、見えなかった部分も見えたりして勉強になりました。前回参加した本の修理も含めて、学べた情報はすべて持ち帰り学校の先生とも共有してたくさん貸出できるようにしていきたいです。図書専門員の研修も今後あってほしい。

ほしい本が早く手に取れる子どもたちがたくさんいますように。子どもたちへの本の取組みもたくさん聞けて良かったです。

黒森小・松山小の親子読書、良い取り組みだと思った。しかし持ち帰ってうちでやりたいとは思わない。今は日々の業務をこなすので精一杯。将来的にやれば良い。

今、話題の本、子どもの関心があるもの、子どもたちに人気の本、新しい本をおくことが、本を手にとってもらうきっかけとして大事であること、を2回の研修を通して実感しました。情報交換大切ですね。

子どもたちに本に興味を持ってもらう入り口作りが大切だと感じた。

まず本に興味を持ってもらう。そして図書館に足を運んでもらう。ちょっとしたアイデアでも、まずはやってみることが大事なかと。

書棚に入れてあるより、出して立てておくと手に取ってくれる。

たくさんの人と意見交換できて勉強になりました。今日聞いたことを、あとでじっくり考えたいと思いました。

自分以外の皆さんの意見が新鮮で、参考になった。話すことが苦手でも、話しやすい雰囲気になるので、担当の方には感謝です。やはり一人でする仕事なので、このように共有できることがためになります。

ミライニとの連携が身近なものとして、より深まることで子どもの読書率向上につながればよいと思います。

学校図書室だけで課題の解決をしようとするのではなく、他の学校や地域、ミライニなどと連携して視野を広く持つことが大切だと感じた。冷房は現実問題として、具体的に対応、計画してほしい。

学校とミライニとの連携をとりたいという意見が多かった。例えば、月・水・金の巡回で寄ることができたら良いな。

専門員さんたちの動ける時間が少ないことを感じた。

子どもの口コミ力はすごいんだと学びました。特に新しい本を欲しがっているということも知りました。さらに学校では様々な工夫をしながら運営されていることも知ることができました。今後も更に学校と連携して子どもたちと本をつなぐ役割を果たしていけたらと強く思いました。

第4次酒田市子ども読書活動推進計画（案）

令和8年（2026年）1月

発 行 酒田市教育委員会社会教育課

〒998-0034 酒田市中央西町2番59号

TEL(0234)24-2992